

学校コード

注3

設置年度 令和 元年度

計画の区分： 学部の設置

注1

届出

注2

広島文教大学 教育学部 教育学科 初等教育専攻

【届出】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人武田学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学生サポート課

職名・氏名

ニシオキ ハルカ
西沖 悠

電話番号

082-814-9995

（夜間）

082-814-9995

e-mail

gakusapo@h-bunkyo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

教育学部

＜教育学科＞(初等教育専攻)	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	25
4. 既設大学等の状況	26
5. 教員組織の状況	29
6. 附帯事項等に対する履行状況等	43
7. その他全般的事項	44

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東1-2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダ ヨシテル) 武田 義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタ ヨウジ) 森下 要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカ トシミチ) 岡 利道 (平成31年4月)	(ハシムラ カツアキ) 橋村 勝明 (令和4年4月)	執行部体制の変更のため (4)
学科長等	(イマザキ ヒロシ) 今崎 浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学部 教育学科 初等教育専攻 学士(教育学)	教育学・保育学関係	4年	120人	—人	480人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	—	—	120	—	120	—	120	—	120	—	1.13倍	—	
志願者数	(—)	(—)	856	—	722	—	577	—	536	—			
受験者数	(—)	(—)	851	—	716	—	574	—	534	—			
合格者数	(—)	(—)	253	—	273	—	293	—	374	—			
B 入学者数	(—)	(—)	138	—	128	—	143	—	135	—			
入学定員超過率 B/A	—	—	1.15	—	1.06	—	1.19	—	1.12	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	138 [—] (—)	— [—] (—)	128 [—] (—)	— [—] (—)	143 [—] (—)	— [—] (—)	135 [—] (—)	— [—] (—)			
2 年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	135 [—] (—)	— [—] (—)	127 [—] (—)	— [—] (—)	142 [—] (—)	— [—] (—)			
3 年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	134 [—] (—)	— [—] (—)	125 [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次	/						/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	134 [—] (—)
計			— [—] (—)	— [—] (—)	138 [—] (—)	— [—] (—)					— [—] (—)	— [—] (—)	263 [—] (—)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	138 人	3 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人) 学生個人の心身に関する事情(1人)
令和2年度	263 人	2 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
			令和2年度	1 人	0 人	家庭の事情(1人)
令和3年度	404 人	3 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	2 人	0 人	就職(2人)
			令和3年度	1 人	0 人	除籍(1人)
令和4年度	536 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		8 人		8 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{138} = \boxed{2.17} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{263} = \boxed{0.76} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{404} = \boxed{0.74} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{536} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科 初等教育専攻>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史 発達と学習	1前	2			1							
	1前	2				2							
	日本語学概論	1前	2			1							
	教師・保育者論	1後	2			1	1						
	教育方法学	1後	2			1	1						
	幼児の理解	1後		1			1						
	児童の理解	1後		1			1						
	野外活動	2前	2				1						
	教育の制度と経営	2後	2					1					
	特別支援教育	2後	2									1	
計(10科目)	-	16	2	0	3	5	0	0	0	0	1		
専門教育科目	A 教育・保育の基礎的理解	教育・保育のカリキュラムマネジメント	2前	2			1	1					
		2後	2				1						
		道徳教育の理論と方法	2後	2				1		1			
		特別活動指導法	2後	2				1					
		生徒指導論	3前	2				1	1				
		学校教育相談	3前	2				1					
		総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2									1
		進路指導とキャリア教育	3後	2					1				
		学校間連携教育	4前	2				2					1
		インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	B 領域・教科の専門的事項と指導法	学校教育心理学	4前	2				1					
		保育原理	1後	2				1					
		社会福祉	2前	2								1	
		児童家庭福祉	2後	2								1	
		保育の心理学Ⅰ	1後	2				1					
		保育の心理学Ⅱ	3後	1				1					
		社会的養護	2前	2								1	
		子ども家庭支援の心理学	2後	2				1				1	
		家庭支援論	4前	2				1				1	
		特別支援保育	3前	2								2	
保育相談支援	4前	1								1			
小計(20科目)	-	2	36	0	2	5	1	0	0	0	9		
展開科目	B 領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2			2						
		1前	2			1							
		教科の学び(算数)	1前	2			1						
		教科の学び(社会)	1前	2			1						
		教科の学び(理科)	1後	2				1				1	
		教科の学び(生活)	2前	2			1	1					
		教科の学び(音楽)	1前	2					2			5	
		教科の学び(図画工作)	1後	2			1					1	
		教科の学び(家庭)	2前	2								1	
		教科の学び(体育)	1後	2			1					2	
	英語科・外国語活動の学び	1後	2			2							
	英語基礎演習	2前	2			1	1						
	英語学概論	2前	2			2	1						
	異文化理解	2後	2			2							
	教材の研究と開発(国語)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(算数)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(社会)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(理科)	3前	2					1					
	教材の研究と開発(生活)	3前	2				1	1					
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2						1				
教材の研究と開発(図画工作)	3前	2				1							
教材の研究と開発(体育)	3前	2				1							
教材の研究と開発(英語)	3前	2				1							
B 領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2				1						
	教科の学び(算数)	1前	2				1						
	教科の学び(社会)	1前	2				1						
	教科の学び(理科)	1後	2					1			1		
	教科の学び(生活)	2前	2				1	1					
	教科の学び(音楽)	1前	2					1	1		6		
	教科の学び(図画工作)	1後	2				1				1		
	教科の学び(家庭)	2前	2								1		
	教科の学び(体育)	1後	2				1				2		
	英語科・外国語活動の学び	1後	2				2						
英語基礎演習	2前	2				2							
英語学概論	2前	2				1							
異文化理解	2後	2				2							
教材の研究と開発(国語)	3前	2				1							
教材の研究と開発(算数)	3前	2				1							
教材の研究と開発(社会)	3前	2				1							
教材の研究と開発(理科)	3前	2					1						
教材の研究と開発(生活)	3前	2				1	1						
教材の研究と開発(音楽)	3前	2						1					
教材の研究と開発(図画工作)	3前	2				1							
教材の研究と開発(体育)	3前	2				1							
教材の研究と開発(英語)	3前	2				1							
小計(20科目)	-	4	34	0	5	2	0	0	0	0	10		

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史 発達と学習	1前	2			1							
	1前	2				2							
	日本語学概論	1前	2			1			2				
	教師・保育者論	1後	2			1	1						
	教育方法学 (情報通信技術の活用含む)	1後	2			1	1						
	幼児の理解	1後		1			1	1					
	児童の理解	1後		1			1	2					
	野外活動	2前	2					2					
	教育の制度と経営	2後	2					1					
	特別支援教育	2後	2									1	
計(10科目)	-	16	2	0	8	4	0	0	0	0	1		
専門教育科目	A 教育・保育の基礎的理解	保育・教育課程論	2前	2			2						
		2後	2				1						
		道徳教育の理論と方法(小)	2後	2				1					
		特別活動指導法(小)	2後	2				1					
		生徒指導論(小)	3前	2				1	1				
		学校教育相談(小)	3前	2				1					1
		総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2									1
		進路指導とキャリア教育(小)	3後	2					1				
		学校間連携教育	4前	2				2					
		インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	B 領域・教科の専門的事項と指導法	学校教育心理学	4前	2				1					
		保育原理	1後	2				1					
		社会福祉	2前	2								1	
		児童家庭福祉	2後	2								1	
		保育の心理学Ⅰ	1後	2				1					
		保育の心理学Ⅱ	3後	1				1					
		社会的養護	2前	2								1	
		子ども家庭支援の心理学	2後	2				1				1	
		家庭支援論	4前	2				1				1	
		特別支援保育	3前	2								2	
保育相談支援	4前	1								1			
小計(20科目)	-	4	34	0	5	2	0	0	0	0	10		
展開科目	B 領域・教科の専門的事項と指導法	教科の学び(国語)	1前	2			1						
		1前	2			1							
		教科の学び(算数)	1前	2			1						
		教科の学び(社会)	1前	2			1						
		教科の学び(理科)	1後	2				1				1	
		教科の学び(生活)	2前	2				1	1				
		教科の学び(音楽)	1前	2					1	1		6	
		教科の学び(図画工作)	1後	2				1				1	
		教科の学び(家庭)	2前	2								1	
		教科の学び(体育)	1後	2				1				2	
	英語科・外国語活動の学び	1後	2				2						
	英語基礎演習	2前	2				2						
	英語学概論	2前	2				1						
	異文化理解	2後	2				2						
	教材の研究と開発(国語)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(算数)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(社会)	3前	2				1						
	教材の研究と開発(理科)	3前	2					1					
	教材の研究と開発(生活)	3前	2				1	1					
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2						1				
教材の研究と開発(図画工作)	3前	2				1							
教材の研究と開発(体育)	3前	2				1							
教材の研究と開発(英語)	3前	2				1							
小計(20科目)	-	4	34	0	5	2	0	0	0	0	10		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
B 領域・教科の専門的事項と指導法 展開科目	国語科教育法	2後	1			1						
	算数科教育法	2後	1			1						
	社会科教育法	2後	1			1						
	理科教育法	2前	1				1					
	生活科教育法	2後	1			1	1					
	音楽科教育法	2後	1					1				
	図画工作科教育法	2前	1			1						
	家庭科教育法	2後	1									1
	体育科教育法	2前	1			1						1
	b 初等英語科教育法	2前	1			1						
	国語科教育法演習	3後	2			1						
	算数科教育法演習	3後	2			1						
	社会科教育法演習	3後	2			1						
	理科教育法演習	3後	2				1					
	生活科教育法演習	3後	2			1	1					
	音楽科教育法演習	3後	2					1				
	図画工作科教育法演習	3後	2			1						
	体育科教育法演習	3後	2			1						
	初等英語科教育法演習	3後	2			1						
	c 子どもと保育内容(健康)	1前	1			1						
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1				1					
	子どもと保育内容(環境)	1前	1			1						
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1				1					
	子どもと保育内容(表現)	1後	1			1		1				
	子どもの保健 I	3前	2									1
	保育の表現技術 I	2後	2					1				2
	保育の表現技術 II	3前	2			1						2
	d 保育内容総論	3前	1				2					
	教材の研究と開発(健康)	3後	2			1						
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2				1					
	教材の研究と開発(環境)	3後	2			1						
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2				1					1
	教材の研究と開発(表現)	3後	2			1	1					
	保育内容の指導法(健康)	2後	1			1						
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1				1					
	保育内容の指導法(環境)	2後	1			1						
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1				1					1
保育内容の指導法(表現)	2前	1			1	1					1	
社会的養護内容	2後	1									1	
乳児保育論	2後	2				1						
乳児保育	3前	1			1							
子どもの保健 II	4前	1									1	
子どもの食と栄養	4後	2									1	
小計(65科目)	-	0	106	0	11	6	2	0			18	
計(85科目)	-	2	142	0	11	8	2	0			25	
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2			1						
	幼児教育の体験活動	2通	2				2					
	教育実習 I	3前	1			1	1					
	教育実習 II	3後	2			1	1					
	教育実習 III	3後-4前	2			2						
	保育実習 I(保育所)	3前	2				1					1
	保育実習 I(施設)	3前	2				1					1
	保育実習 II	3後	2				1					1
	保育実習 III	3後	2				1					1
	保育実習指導 I A	2後	1			1						1
	保育実習指導 I B	3前	1			1						1
	保育実習指導 II	3後	1				1					1
	保育実習指導 III	3後	1				1					1
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1					
計(14科目)	-	0	23	0	2	3	0	0	0		0	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
B 領域・教科の専門的事項と指導法 展開科目	国語科教育法	2後	1			1						
	算数科教育法	2後	1			1						
	社会科教育法	2後	1			1						
	理科教育法	2前	1				1					
	生活科教育法	2後	1			1	1					
	音楽科教育法	2後	1					1				
	図画工作科教育法	2前	1			1						
	家庭科教育法	2後	1									1
	体育科教育法	2前	1			1						1
	b 初等英語科教育法	2前	1			1						
	国語科教育法演習	3後	2			1						
	算数科教育法演習	3後	2			1						
	社会科教育法演習	3後	2			1						
	理科教育法演習	3後	2				1					
	生活科教育法演習	3後	2			1	1					
	音楽科教育法演習	3後	2					1				
	図画工作科教育法演習	3後	2			1						
	体育科教育法演習	3後	2			1						
	初等英語科教育法演習	3後	2			1						
	c 子どもと保育内容(健康)	1前	1			1						
	子どもと保育内容(人間関係)	1後	1				1					
	子どもと保育内容(環境)	1前	1			1						
	子どもと保育内容(言葉)	1後	1				1					
	子どもと保育内容(表現)	1後	1			1		1				1
	子どもの保健 I	3前	2									1
	保育の表現技術 I	2後	2					1				2
	保育の表現技術 II	3前	2			1						2
	d 保育内容総論	3前	1				2					
	教材の研究と開発(健康)	3後	2			1						
	教材の研究と開発(人間関係)	3後	2				1					
	教材の研究と開発(環境)	3後	2			1						
	教材の研究と開発(言葉)	3後	2				1					1
	教材の研究と開発(表現)	3後	2			1	1					
	保育内容の指導法(健康)	2後	1			1						
	保育内容の指導法(人間関係)	2前	1				1					
	保育内容の指導法(環境)	2後	1			1						
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1				1					1
保育内容の指導法(表現)	2前	1			1	1					1	
社会的養護内容	2後	1									2	
乳児保育論	2後	2				1						
乳児保育	3前	1			1							
子どもの保健 II	4前	1									1	
子どもの食と栄養	4後	2									1	
小計(65科目)	-	0	106	0	13	3	1	0			23	
計(85科目)	-	4	140	0	13	4	2	0			31	
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2			2	1					1
	幼児教育の体験活動	2通	2			2	1					
	教育実習 I	3前	1			1	1					
	教育実習 II	3後	2			2	2					
	教育実習 III	3後-4前	2			2	1	1				
	保育実習 I(保育所)	3前	2				1					1
	保育実習 I(施設)	3前	2				1					1
	保育実習 II	3後	2				1					1
	保育実習 III	3後	2				1					1
	保育実習指導 I A	2後	1			1						1
	保育実習指導 I B	3前	1			1						1
	保育実習指導 II	3後	1				1					1
	保育実習指導 III	3後	1				1					1
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			2	3					3
計(14科目)	-	0	23	0	6	3	0	0	0		3	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
探求科目	教育学入門	1前-1後	2			1							
	教育学研究Ⅰ	2前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			7	7	2					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			7	7	2					
	卒業研究	4前-4後	4			7	7	2					
	計(6科目)		—	14	0	0	7	7	2	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)			—	32	167	0	11	9	2	0	0	26	
教養教育科目	人間学科目群	文教学入門	1前	2								1	
		日本国憲法	1後	2			1					1	
		人生論	3前		2							1	
		大学での学びⅠ	1前		1							1	
		大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1	
		小計(5科目)	—	4	4	0	2	1	0	0	0	3	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2~3		2							2
			日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1
			文学を読む意味	2~3		2							1
			言葉とコミュニケーション	2~3		2		1					1
			欧米と日本	2~3		2		1					2
			アジアと日本	2~3		2							1
			社会とジェンダー	2~3		2							1
		B	くらしの中の心理学	2~3		2							1
			くらしと経済	2~3		2							1
			くらしと法律	2~3		2							1
			くらしと社会福祉	2~3		2							2
			地域と社会	2~3		2							2
			子どもと社会	2~3		2							1
			人権問題の歩みとその展望	2~3		2							1
	C	社会と生命科学	2~3		2							2	
		食の科学	2~3		2							1	
		からだと健康	2~3		2							2	
		くらしと自然	2~3		2			1				1	
		環境の科学	2~3		2							1	
		食生活と健康	2~3		2							2	
		メディアと社会	2~3		2			1				2	
小計(21科目)	—	0	42	0	2	2	0	0	0	22			
国際教育系	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								2	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	2								2	
		英語コミュニケーションⅢ	2前		2							2	
		英語コミュニケーションⅣ	2後		2							2	
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		異文化への理解Ⅰ	2前		2							1	
		異文化への理解Ⅱ	2後		2							1	
		情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前		1							2
			情報処理演習Ⅱ	1後		1							2
情報処理演習Ⅲ	2前			2							1		
情報処理演習Ⅳ	2後			2							1		
生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前		1		1					1		
	運動学演習Ⅱ	1-2-3-4後		1							1		
	運動学演習Ⅲ	2前		1							1		
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
探求科目	教育学入門	1前-1後	2			1							
	教育学研究Ⅰ	2前	2			11	4	1					
	教育学研究Ⅱ	2後	2			11	4	1					
	教育学研究Ⅲ	3前	2			11	4	1					
	教育学研究Ⅳ	3後	2			11	4	1					
	卒業研究	4前-4後	4			11	4	1					
	計(6科目)		—	14	0	0	11	4	1	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)			—	34	165	0	16	4	1	0	0	33	
教養教育科目	人間学科目群	文教学入門	1前	2								1	
		日本国憲法	1後	2								1	
		人生論	3前		2							1	
		大学での学びⅠ	1前		1							2	
		大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1	
		小計(5科目)	—	4	4	0	1	1	0	0	0	5	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2~3		2							2
			日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1
			文学を読む意味	2~3		2							1
			言葉とコミュニケーション	2~3		2		2					1
			欧米と日本	2~3		2		1					1
			アジアと日本	2~3		2							1
			社会とジェンダー	2~3		2							1
		B	くらしの中の心理学	2~3		2							1
			くらしと経済	2~3		2							1
			くらしと法律	2~3		2							1
			くらしと社会福祉	2~3		2							2
			地域と社会	2~3		2							2
			子どもと社会	2~3		2							1
			人権問題の歩みとその展望	2~3		2							1
	C	社会と生命科学	2~3		2							2	
		食の科学	2~3		2							1	
		からだと健康	2~3		2							2	
		くらしと自然	2~3		2							1	
		環境の科学	2~3		2							1	
		食生活と健康	2~3		2							2	
		メディアと社会	2~3		2			1				2	
小計(21科目)	—	0	42	0	4	0	0	0	0	21			
国際教育系	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								8	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	2								8	
		英語コミュニケーションⅢ	2前		2							3	
		英語コミュニケーションⅣ	2後		2							3	
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		異文化への理解Ⅰ	2前		2							1	
		異文化への理解Ⅱ	2後		2							1	
		情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前		1							2
			情報処理演習Ⅱ	1後		1							2
情報処理演習Ⅲ	2前			2							1		
情報処理演習Ⅳ	2後			2							1		
生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前		1							2		
	運動学演習Ⅱ	1-2-3-4後		1							1		
	運動学演習Ⅲ	2前		1							1		
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習Ⅰ	3・4前		1		1						
	制作技法演習Ⅱ	3・4後		1		1						
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							1	
	小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	11	
教養教育科目	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2							1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前		2							1	
	インターンシップ	2前		2							1	
	プレゼンテーション技法	2後		2							1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1	
	ビジネス文書	3後		2							1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)			-	0	16	0	6	2	0	0	0	31
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書館	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2		1						
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	42	267	34	11	10	2	0	0	61

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】
 ① 人間学科目群から4単位以上
 ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
 ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
 ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】
 教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》
 <幼稚園教諭一種免許状>
 保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>
 保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生涯学習概論	1後		2							1	
	健康とスポーツ	1後		1							1	
	制作技法演習Ⅰ	3・4前		1		1						
	制作技法演習Ⅱ	3・4後		1		1						
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							4	
	小計(31科目)	-	6	42	0	1	0	0	0	0	23	
教養教育科目	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2							1	
	キャリア形成概論Ⅱ	2前		2							1	
	インターンシップ	2前		2							1	
	プレゼンテーション技法	2後		2							1	
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1	
	ビジネス文書	3後		2							1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	3	
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	6	1	0	0	0	45
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2							1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	2	0	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書館	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2		1						
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	2	1	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	14	100	34	17	5	1	0	0	80

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】
 ① 人間学科目群から4単位以上
 ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
 ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
 ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】
 教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》
 <幼稚園教諭一種免許状>
 保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>
 保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

＜小学校教諭一種免許状＞

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。

② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

《児童教育コース》

＜小学校教諭一種免許状＞

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。

② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【令和元年度】

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎教育科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2			1						
	発達と学習(幼・小)	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	教師・保育者論	1後	2			1	1					
	教育方法学(幼・小)	1後	2			1	1					
	幼児の理解	1後		1			1					
	児童の理解	1後		1			1					
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2				1					
	特別支援教育(幼・小)	2後	2									1
計(10科目)	-	16	2	0	4	4	0	0	0	0	1	
A 教育・保育の基礎的理解	保育・教育課程論	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法(小)	2後	2			1						
	特別活動指導法(小)	2後	2			1						
	生徒指導論(小)	3前	2			1	1					
	学校教育相談(幼・小)	3前	2									1
	総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2									1
	進路指導とキャリア教育(小)	3後	2			1						
	学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	学校教育心理学	4前	2			1						
b 保育の基礎的理解	保育原理	1後	2			1						
	社会福祉	2前	2									1
	児童家庭福祉	2後	2									1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2			1						
	保育の心理学Ⅱ	3後	1			1						
	社会的養護	2前	2									1
	子ども家庭支援の心理学	2後	2			1						1
	家庭支援論	4前	2			1						1
	特別支援保育	3前	2									2
	保育相談支援	4前	1									1
小計(20科目)	-	4	34	0	2	5	0	0	0	0	10	
a 展開科目	教科の学び(国語)	1前	2			2						
	教科の学び(算数)	1前	2			1						
	教科の学び(社会)	1前	2			1						
	教科の学び(理科)	1後	2			1						1
	教科の学び(生活)	2前	2			1	1					
	教科の学び(音楽)	1前	2					2				5
	教科の学び(図画工作)	1後	2			1						1
	教科の学び(家庭)	2前	2									1
	教科の学び(体育)	1後	2			1						2
	英語科・外国語活動	1後	2			2						
b 領域・教科の専門的事項と指導法	英語基礎演習	2前	2			1	1					
	英語学概論	2前	2			1						
	異文化理解	2後	2			2						
	教材の研究と開発(国語)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(算数)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(社会)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(理科)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(生活)	3前	2			1	1					
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1				
	教材の研究と開発(図画工作)	3前	2			1						
b 領域・教科の専門的事項と指導法	教材の研究と開発(体育)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(英語)	3前	2			1						
	国語科教育法	2後	1			1						
	算数科教育法	2後	1			1						
	社会科教育法	2後	1			1						
	理科教育法	2前	1			1						
	生活科教育法	2後	1			1	1					
	音楽科教育法	2後	1					1				
図画工作科教育法	2前	1			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎教育科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2				1					
	発達と学習(幼・小)	1前	2				2					
	日本語学概論	1前	2				1					
	教師・保育者論	1後	2				1	1				
	教育方法学(幼・小)	1後	2				1	1				
	幼児の理解	1後		1				2				
	児童の理解	1後		1				2	1			
	野外活動	2前	2					2				
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2					1				
	特別支援教育(幼・小)	2後	2									1
計(10科目)	-	16	2	0	6	6	0	0	0	0	1	
A 教育・保育の基礎的理解	保育・教育課程論	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法(小)	2後	2			1						
	特別活動指導法(小)	2後	2			1						
	生徒指導論(小)	3前	2			1	1					
	学校教育相談(幼・小)	3前	2									1
	総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2									1
	進路指導とキャリア教育(小)	3後	2			1						
	学校間連携教育	4前	2			2						
	インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
	学校教育心理学	4前	2						1			
b 保育の基礎的理解	保育原理	1後	2			1						
	社会福祉	2前	2									1
	児童家庭福祉	2後	2									1
	保育の心理学Ⅰ	1後	2			1						
	保育の心理学Ⅱ	3後	1			1						
	社会的養護	2前	2									1
	子ども家庭支援の心理学	2後	2			1						1
	家庭支援論	4前	2			1						1
	特別支援保育	3前	2									2
	保育相談支援	4前	1									1
小計(20科目)	-	4	34	0	2	5	0	0	0	0	9	
a 展開科目	教科の学び(国語)	1前	2			2						
	教科の学び(算数)	1前	2			1						
	教科の学び(社会)	1前	2			1						
	教科の学び(理科)	1後	2			1						1
	教科の学び(生活)	2前	2			1	1					
	教科の学び(音楽)	1前	2							1		6
	教科の学び(図画工作)	1後	2			1						1
	教科の学び(家庭)	2前	2									1
	教科の学び(体育)	1後	2			1						2
	英語科・外国語活動	1後	2			2						
b 領域・教科の専門的事項と指導法	英語基礎演習	2前	2			1	1					
	英語学概論	2前	2			1						
	異文化理解	2後	2			2						
	教材の研究と開発(国語)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(算数)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(社会)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(理科)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(生活)	3前	2			1	1					
	教材の研究と開発(音楽)	3前	2						1			
	教材の研究と開発(図画工作)	3前	2			1						
b 領域・教科の専門的事項と指導法	教材の研究と開発(体育)	3前	2			1						
	教材の研究と開発(英語)	3前	2			1						
	国語科教育法	2後	1			1						
	算数科教育法	2後	1			1						
	社会科教育法	2後	1			1						
	理科教育法	2前	1			1						
	生活科教育法	2後	1			1	1					
	音楽科教育法	2後	1						1			
図画工作科教育法	2前	1			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
b	家庭科教育法	2後	1								1	
	体育科教育法	2前	1		1						1	
	初等英語科教育法	2前	1		1							
	国語科教育法演習	3後	2		1							
	算数科教育法演習	3後	2		1							
	社会科教育法演習	3後	2		1							
	理科教育法演習	3後	2			1						
	生活科教育法演習	3後	2		1	1						
	音楽科教育法演習	3後	2				1					
	図画工作科教育法演習	3後	2		1							
	体育科教育法演習	3後	2		1							
	初等英語科教育法演習	3後	2		1							
	c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1						
		子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1					
		子どもと保育内容(環境)	1前	1		1						
		子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1					
		子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1				1
		子どもの保健 I	3前	2								1
		保育の表現技術 I	2後	2				1				2
	保育の表現技術 II	3前	2		1						2	
	d	保育内容総論	3前	1			2					
教材の研究と開発(健康)		3後	2		1							
教材の研究と開発(人間関係)		3後	2			1						
教材の研究と開発(環境)		3後	2		1							
教材の研究と開発(言葉)		3後	2		1	1					1	
教材の研究と開発(表現)		3後	2		1		1					
保育内容の指導法(健康)		2後	1		1							
保育内容の指導法(人間関係)		2前	1			1						
保育内容の指導法(環境)		2後	1		1							
保育内容の指導法(言葉)		2前	1			1					1	
保育内容の指導法(表現)		2前	1		1		1				1	
社会的養護内容		2後	1								1	
乳児保育論		2後	2			1						
乳児保育		3前	1			1					1	
子どもの保健 II	4前	1								1		
子どもの食と栄養	4後	2								1		
小計(65科目)	-	0	106	0	12	5	2	0			21	
計(85科目)	-	4	140	0	12	7	2	0			29	
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2		1							
	幼児教育の体験活動	2通	2			2						
	教育実習 I	3前	1		1	1						
	教育実習 II	3後	2		1	1						
	教育実習 III	3後-4前	2		2							
	保育実習 I(保育所)	3前	2			1						
	保育実習 I(施設)	3前	2			1						
	保育実習 II	3後	2			1						
	保育実習 III	3後	2			1						
	保育実習指導 I A	2後	1		1							
	保育実習指導 I B	3前	1		1							
	保育実習指導 II	3後	1			1						
	保育実習指導 III	3後	1			1						
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1					
計(14科目)	-	0	23	0	2	3	0	0	0	0		
探求科目	教育学入門	1前-1後	2			1						
	教育学研究 I	2前	2		7	7	2					
	教育学研究 II	2後	2		7	7	2					
	教育学研究 III	3前	2		7	7	2					
	教育学研究 IV	3後	2		7	7	2					
	卒業研究	4前-4後	4		7	7	2					
計(6科目)	-	14	0	0	7	7	2	0	0	0		
専門教育科目合計(115科目)	-	34	165	0	12	8	2	0	0	0	30	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
b	家庭科教育法	2後	1								1	
	体育科教育法	2前	1		1						1	
	初等英語科教育法	2前	1		1							
	国語科教育法演習	3後	2		1							
	算数科教育法演習	3後	2		1							
	社会科教育法演習	3後	2		1							
	理科教育法演習	3後	2			1						
	生活科教育法演習	3後	2		1	1						
	音楽科教育法演習	3後	2				1					
	図画工作科教育法演習	3後	2		1							
	体育科教育法演習	3後	2		1							
	初等英語科教育法演習	3後	2		1							
	c	子どもと保育内容(健康)	1前	1		1						
		子どもと保育内容(人間関係)	1後	1			1					
		子どもと保育内容(環境)	1前	1		1						
		子どもと保育内容(言葉)	1後	1			1					
		子どもと保育内容(表現)	1後	1		1		1				1
		子どもの保健 I	3前	2								1
		保育の表現技術 I	2後	2				1				2
	保育の表現技術 II	3前	2		1						2	
	d	保育内容総論	3前	1			2					
教材の研究と開発(健康)		3後	2		1							
教材の研究と開発(人間関係)		3後	2			1						
教材の研究と開発(環境)		3後	2		1							
教材の研究と開発(言葉)		3後	2		1	1					1	
教材の研究と開発(表現)		3後	2		1		1					
保育内容の指導法(健康)		2後	1		1							
保育内容の指導法(人間関係)		2前	1			1						
保育内容の指導法(環境)		2後	1		1							
保育内容の指導法(言葉)		2前	1			1					1	
保育内容の指導法(表現)		2前	1		1		1				1	
社会的養護内容		2後	1								3	
乳児保育論		2後	2			1						
乳児保育		3前	1			1					1	
子どもの保健 II	4前	1								1		
子どもの食と栄養	4後	2								1		
小計(65科目)	-	0	106	0	12	5	2	0			24	
計(85科目)	-	4	140	0	12	7	2	0			32	
実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通	2			2	1					
	幼児教育の体験活動	2通	2				3					
	教育実習 I	3前	1		1	1						
	教育実習 II	3後	2		1	1						
	教育実習 III	3後-4前	2		2							
	保育実習 I(保育所)	3前	2			1						
	保育実習 I(施設)	3前	2			1						
	保育実習 II	3後	2			1						
	保育実習 III	3後	2			1						
	保育実習指導 I A	2後	1		1							
	保育実習指導 I B	3前	1		1							
	保育実習指導 II	3後	1			1						
	保育実習指導 III	3後	1			1						
	教職実践演習(幼・小)	4後	2			1	1					
計(14科目)	-	0	23	0	3	4	0	0	0	0	1	
探求科目	教育学入門	1前-1後	2				1					
	教育学研究 I	2前	2		7	7	1					
	教育学研究 II	2後	2		7	7	1					
	教育学研究 III	3前	2		7	7	1					
	教育学研究 IV	3後	2		7	7	1					
	卒業研究	4前-4後	4		7	7	1					
計(6科目)	-	14	0	0	7	7	1	0	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)	-	34	165	0	12	8	2	0	0	0	34	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間学 現代教養科目 教養教育科目 スキル教育科目	人文学科目群	文教学入門	1前	2							1		
	日本国憲法	1後	2			1					1		
	人生論	3前		2							1		
	大学での学びⅠ	1前		1							1		
	大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1		
	小計(5科目)	-	4	4	0	2	1	0	0	0	3		
	A	現代思想と哲学	2~3		2							2	
		日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1	
		文学を読む意味	2~3		2							1	
		言葉とコミュニケーション	2~3		2		1						
		欧米と日本	2~3		2		1						
		アジアと日本	2~3		2							2	
		社会とジェンダー	2~3		2							1	
		B	くらしの中の心理学	2~3		2							1
			くらしと経済	2~3		2							1
			くらしと法律	2~3		2							1
			くらしと社会福祉	2~3		2							1
			地域と社会	2~3		2							1
			子どもと社会	2~3		2							1
			人権問題の歩みとその展望	2~3		2							1
C	社会と生命科学	2~3		2							2		
	食の科学	2~3		2							1		
	からだと健康	2~3		2							2		
	くらしと自然	2~3		2		1							
	環境の科学	2~3		2							1		
	食生活と健康	2~3		2							2		
	メディアと社会	2~3		2							1		
小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	22			
国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								8		
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2								8		
	英語コミュニケーションⅢ	2前		2							6		
	英語コミュニケーションⅣ	2後		2							6		
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
フランスの言葉と文化Ⅳ		3後		2							1		
中国の言葉と文化Ⅰ		2前		2							1		
中国の言葉と文化Ⅱ		2後		2							1		
中国の言葉と文化Ⅲ	中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1		
	中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1		
	異文化への理解Ⅰ	2前		2							1		
	異文化への理解Ⅱ	2後		2							1		
情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								2		
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								2		
	情報処理演習Ⅲ	2前		2							1		
	情報処理演習Ⅳ	2後		2							1		
生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前		1		1					1		
	運動学演習Ⅱ	1~2-3-4後		1							1		
	運動学演習Ⅲ	2前		1							1		
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1		
	生涯学習概論	1後		2							1		
	健康とスポーツ	1後		1							1		
	制作技法演習Ⅰ	3-4前		1		1							
	制作技法演習Ⅱ	3-4後		1		1							
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							6		
	小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	22		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間学 現代教養科目 教養教育科目 スキル教育科目	人文学科目群	文教学入門	1前	2							1		
	日本国憲法	1後	2								1		
	人生論	3前		2							1		
	大学での学びⅠ	1前		1							2		
	大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1		
	小計(5科目)	-	4	4	0	1	1	0	0	0	4		
	A	現代思想と哲学	2~3		2							2	
		日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1	
		文学を読む意味	2~3		2							1	
		言葉とコミュニケーション	2~3		2		1						
		欧米と日本	2~3		2		1						
		アジアと日本	2~3		2							1	
		社会とジェンダー	2~3		2							1	
		B	くらしの中の心理学	2~3		2							1
			くらしと経済	2~3		2							1
			くらしと法律	2~3		2							1
			くらしと社会福祉	2~3		2							1
			地域と社会	2~3		2							2
			子どもと社会	2~3		2							1
			人権問題の歩みとその展望	2~3		2							1
C	社会と生命科学	2~3		2							2		
	食の科学	2~3		2							1		
	からだと健康	2~3		2							2		
	くらしと自然	2~3		2			1						
	環境の科学	2~3		2							1		
	食生活と健康	2~3		2							2		
	メディアと社会	2~3		2							1		
小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	22			
国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								8		
	英語コミュニケーションⅡ	1後	2								8		
	英語コミュニケーションⅢ	2前		2							6		
	英語コミュニケーションⅣ	2後		2							6		
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
フランスの言葉と文化Ⅳ		3後		2							1		
中国の言葉と文化Ⅰ		2前		2							1		
中国の言葉と文化Ⅱ		2後		2							1		
中国の言葉と文化Ⅲ	中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1		
	中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1		
	異文化への理解Ⅰ	2前		2							1		
	異文化への理解Ⅱ	2後		2							1		
情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								3		
	情報処理演習Ⅱ	1後	1								3		
	情報処理演習Ⅲ	2前		2							1		
	情報処理演習Ⅳ	2後		2							1		
生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前		1		1					2		
	運動学演習Ⅱ	1~2-3-4後		1							1		
	運動学演習Ⅲ	2前		1							1		
	運動学演習Ⅳ	2後		1							1		
	生涯学習概論	1後		2							1		
	健康とスポーツ	1後		1							1		
	制作技法演習Ⅰ	3-4前		1		1							
	制作技法演習Ⅱ	3-4後		1		1							
	障害者コミュニケーション技術	1前		1							4		
	小計(31科目)	-	6	42	0	2	0	0	0	0	23		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2							1	
		キャリア形成概論Ⅱ	2前	2							1	
		インターンシップ	2前	2							1	
		プレゼンテーション技法	2後	2							1	
		コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2							1	
		ビジネス文書	3後	2							1	
		小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	2
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	6	2	0	0	0	42
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2						1	
		図書館概論	1前		2	1						
		図書館情報技術論	4前		2	1						
		図書館制度・経営論	3前		2						1	
		図書館サービス概論	3前		2						1	
		情報サービス論	3後		2	1						
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2	1						
		図書館情報資源概論	1後		2						1	
		情報資源組織論	2前		2						1	
	情報資源組織演習	2後		2						1		
	乙群	図書館サービス特論	4後		1	1						
		図書・図書館史	4後		1						1	
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2	1					1		
	学校図書館メディアの構成	1後		2	1							
	学習指導と学校図書館	2後		2	1							
	読書と豊かな人間性	3後		2	1							
	情報メディアの活用	3前		2	1							
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	44	265	34	12	9	2	0	0	73

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

<幼稚園教諭一種免許状>

保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>

保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

<小学校教諭一種免許状>

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2							1	
		キャリア形成概論Ⅱ	2前	2							1	
		インターンシップ	2前	2							1	
		プレゼンテーション技法	2後	2							1	
		コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2							1	
		ビジネス文書	3後	2							1	
		小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	2
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	6	2	0	0	0	44
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2						1	
		図書館概論	1前		2	1						
		図書館情報技術論	4前		2	1						
		図書館制度・経営論	3前		2						1	
		図書館サービス概論	3前		2						1	
		情報サービス論	3後		2	1						
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2	1						
		図書館情報資源概論	1後		2						1	
		情報資源組織論	2前		2						1	
	情報資源組織演習	2後		2						1		
	乙群	図書館サービス特論	4後		1	1						
		図書・図書館史	4後		1						1	
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2	1					1		
	学校図書館メディアの構成	1後		2	1							
	学習指導と学校図書館	2後		2	1							
	読書と豊かな人間性	3後		2	1							
	情報メディアの活用	3前		2	1							
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	44	265	34	12	9	2	0	0	80

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

<幼稚園教諭一種免許状>

保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>

保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

<小学校教諭一種免許状>

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史(幼・小)	1前	2				1						
	発達と学習(幼・小)	1前	2				2						
	日本語学概論	1前	2			1							
	教師・保育者論	1後	2			1	1						
	教育方法学(幼・小)	1後	2			1	1						
	幼児の理解	1後		1			1						
	児童の理解	1後		1			1	1					
	野外活動	2前	2			2							
	教育の制度と経営(幼・小)	2後	2				1						
	特別支援教育(幼・小)	2後	2									1	
計(10科目)	-	16	2	0	5	5	1	0	0		1		
専門教育科目	A 教育・保育の基礎的理解	a	保育・教育課程論	2前	2			2					
			道徳教育の理論と方法(小)	2後	2			1					
			特別活動指導法(小)	2後	2			1					
			生徒指導論(小)	3前	2			1	1				
			学校教育相談(幼・小)	3前	2								1
			総合的な学習の時間の指導法(小)	3後	2								1
			進路指導とキャリア教育(小)	3後	2				1				
	b	学校間連携教育	4前	2			2						1
		インクルーシブ教育・保育	4前	2									1
		学校教育心理学	4前	2				1					
		保育原理	1後	2			1						
		社会福祉	2前	2								1	
		児童家庭福祉	2後	2								1	
		保育の心理学Ⅰ	1後	2				1					
		保育の心理学Ⅱ	3後	1				1					
		社会的養護	2前	2								1	
		子ども家庭支援の心理学	2後	2				1				1	
家庭支援論	4前	2			1					1			
特別支援保育	3前	2								2			
保育相談支援	4前	1								1			
小計(20科目)	-	4	34	0	4	3	0	0	0		9		
展開科目	B 領域・教科の専門的事項と指導法	a	教科の学び(国語)	1前	2			1					
			教科の学び(算数)	1前	2			1					
			教科の学び(社会)	1前	2			1					
			教科の学び(理科)	1後	2				1				1
			教科の学び(生活)	2前	2			1	1				
			教科の学び(音楽)	1前	2					2			6
			教科の学び(図画工作)	1後	2			1					1
			教科の学び(家庭)	2前	2								1
			教科の学び(体育)	1後	2			1					2
			英語科・外国語活動の学び	1後	2			2					
			英語基礎演習	2前	2			2					
			英語学概論	2前	2			1					
	異文化理解	2後	2			2							
	b	教材の研究と開発(国語)	3前	2			1						
		教材の研究と開発(算数)	3前	2			1						
		教材の研究と開発(社会)	3前	2			1						
		教材の研究と開発(理科)	3前	2				1					
		教材の研究と開発(生活)	3前	2			1	1					
		教材の研究と開発(音楽)	3前	2					1				
教材の研究と開発(図画工作)		3前	2			1							
教材の研究と開発(体育)	3前	2			1								
教材の研究と開発(英語)	3前	2			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
B 領域・教科の専門的事項と指導法 展開科目	国語科教育法	2後		1		1							
	算数科教育法	2後		1		1							
	社会科教育法	2後		1		1							
	理科教育法	2前		1			1						
	生活科教育法	2後		1		1	1						
	音楽科教育法	2後		1				1					
	図画工作科教育法	2前		1		1							
	家庭科教育法	2後		1								1	
	体育科教育法	2前		1		1						1	
	初等英語科教育法	2前		1		1							
	国語科教育法演習	3後		2		1							
	算数科教育法演習	3後		2		1							
	社会科教育法演習	3後		2		1							
	理科教育法演習	3後		2			1						
	生活科教育法演習	3後		2		1	1						
	音楽科教育法演習	3後		2				1					
	図画工作科教育法演習	3後		2		1							
	体育科教育法演習	3後		2		1							
	初等英語科教育法演習	3後		2		1							
	c	子どもと保育内容(健康)	1前		1		1						
		子どもと保育内容(人間関係)	1後		1			1					
		子どもと保育内容(環境)	1前		1		1						
		子どもと保育内容(言葉)	1後		1		1						
		子どもと保育内容(表現)	1後		1		1			1			1
		子どもの保健Ⅰ	3前		2								1
		保育の表現技術Ⅰ	2後		2					1			2
	保育の表現技術Ⅱ	3前		2		1						2	
	d	保育内容総論	3前		1		2						
		教材の研究と開発(健康)	3後		2		1						
		教材の研究と開発(人間関係)	3後		2			1					
		教材の研究と開発(環境)	3後		2		1						
		教材の研究と開発(言葉)	3後		2		1						1
		教材の研究と開発(表現)	3後		2		1			1			
		保育内容の指導法(健康)	2後		1		1						
		保育内容の指導法(人間関係)	2前		1			1					
		保育内容の指導法(環境)	2後		1		1						
		保育内容の指導法(言葉)	2前		1		1						1
		保育内容の指導法(表現)	2前		1		1			1			
		社会的養護内容	2後		1								2
		乳児保育論	2後		2		1						
		乳児保育	3前		1		1						1
	子どもの保健Ⅱ	4前		1								1	
	子どもの食と栄養	4後		2								1	
	小計(65科目)		-	0	106	0	13	2	2	0	0	0	22
	計(85科目)		-	4	140	0	13	4	2	0	0	0	31
	実践科目	学校教育の体験活動(小)	2通		2		2		1				1
		幼児教育の体験活動	2通		2		2	1					
教育実習Ⅰ		3前		1		1	1						
教育実習Ⅱ		3後		2		1	1						
教育実習Ⅲ		3後・4前		2		1	1						
保育実習Ⅰ(保育所)		3前		2		1						1	
保育実習Ⅰ(施設)		3前		2			1					1	
保育実習Ⅱ		3後		2		1						1	
保育実習Ⅲ		3後		2			1					1	
保育実習指導ⅠA		2後		1		1						1	
保育実習指導ⅠB		3前		1		1						1	
保育実習指導Ⅱ		3後		1		1						1	
保育実習指導Ⅲ		3後		1			1					1	
教職実践演習(幼・小)		4後		2		2							
計(14科目)		-	0	23	0	5	3	1	0	0	0	3	
探求科目	教育学入門	1前・1後		2			1						
	教育学研究Ⅰ	2前		2		9	5	2					
	教育学研究Ⅱ	2後		2		9	5	2					
	教育学研究Ⅲ	3前		2		9	5	2					
	教育学研究Ⅳ	3後		2		9	5	2					
	卒業研究	4前・4後		4		9	5	2					
計(6科目)		-	14	0	0	9	5	2	0	0	0	0	
専門教育科目合計(115科目)		-	34	165	0	13	5	2	0	0	0	32	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間学科目群	文教学入門	1前	2								1		
	日本国憲法	1後	2								1		
	人生論	3前		2							1		
	大学での学びⅠ	1前		1							2		
	大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1		
小計(5科目)	-	4	4	0	1	1	0	0	0	4			
現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2~3		2							2	
		日本とヒロシマの歴史	2~3		2							1	
		文学を読む意味	2~3		2							1	
		言葉とコミュニケーション	2~3		2		1						
		欧米と日本	2~3		2		1						
		アジアと日本	2~3		2							1	
		社会とジェンダー	2~3		2							1	
	B	暮らしの中の心理学	2~3		2							1	
		暮らしと経済	2~3		2							1	
		暮らしと法律	2~3		2							1	
		暮らしと社会福祉	2~3		2							2	
		地域と社会	2~3		2							2	
		子どもと社会	2~3		2							1	
	C	社会と生命科学	2~3		2							2	
		食の科学	2~3		2							2	
		からだと健康	2~3		2							2	
		暮らしと自然	2~3		2			1					
		環境の科学	2~3		2							1	
		食生活と健康	2~3		2							2	
		メディアと社会	2~3		2			1					
	小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	23		
教養教育科目	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								7	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	2								7	
		英語コミュニケーションⅢ	2前		2							5	
		英語コミュニケーションⅣ	2後		2							5	
	国際教育系Ⅱ	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
	異文化への理解	異文化への理解Ⅰ	2前		2							1	
		異文化への理解Ⅱ	2後		2							1	
		情報教育系	情報処理演習Ⅰ	1前	1								3
			情報処理演習Ⅱ	1後	1								3
	情報処理演習Ⅲ		2前		2							1	
	情報処理演習Ⅳ		2後		2							1	
	生涯教育系	運動学演習Ⅰ	1前		1							3	
		運動学演習Ⅱ	2-3-4後		1							1	
		運動学演習Ⅲ	2前		1							1	
		運動学演習Ⅳ	2後		1							1	
		生涯学習概論	1後		2							1	
		健康とスポーツ	1後		1							1	
		制作技法演習Ⅰ	3-4前		1		1						
制作技法演習Ⅱ		3-4後		1		1							
障害者コミュニケーション技術		1前		1								4	
小計(31科目)		-	6	42	0	1	0	0	0	0	26		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2								1
		キャリア形成概論Ⅱ	2前	2								1
		インターンシップ	2前	2								1
		プレゼンテーション技法	2後	2								1
		コミュニケーションとソーシャルスキル	3前	2								1
		ビジネス文書	3後	2								1
		小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	4	2	0	0	0	48
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2							1
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2		1					
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
	情報資源組織演習	2後		2							1	
	乙群	図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書館	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2	1							
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(196科目)			-	44	265	34	15	6	2	0	0	81

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目16単位及び選択必修科目1単位以上、展開科目・探究科目から必修科目18単位及び選択必修科目30単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状及び保育士資格を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《幼児教育コース》

<幼稚園教諭一種免許状>

保育・教育課程論、学校教育相談(幼・小)、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、保育内容総論、子どもの食と栄養のうち2単位、及び教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、また、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱのうち2単位を修得すること。

<保育士資格>

保育・教育課程論、保育原理、社会福祉、児童家庭福祉、保育の心理学Ⅰ、同Ⅱ、社会的養護、子ども家庭支援の心理学、家庭支援論、特別支援保育、保育相談支援、子どもと保育内容(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、子どもの保健Ⅰ、保育の表現技術Ⅰ、同Ⅱ、保育内容総論、保育内容の指導法(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)、社会的養護内容、乳児保育論、乳児保育、子どもの保健Ⅱ、子どもの食と栄養、保育実習Ⅰ(保育所)、同Ⅰ(施設)、保育実習指導ⅠA、同ⅠB、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、教材の研究と開発(健康)、同(人間関係)、同(環境)、同(言葉)、同(表現)のうち2単位以上、及び保育実習Ⅱ、同Ⅲのうち2単位を修得すること。また、保育実習指導Ⅱ、同Ⅲのうち1単位を修得すること。

《児童教育コース》

<小学校教諭一種免許状>

保育・教育課程論、道徳教育の理論と方法(小)、特別活動指導法(小)、生徒指導論(小)、学校教育相談(幼・小)、総合的な学習の時間の指導法(小)、進路指導とキャリア教育(小)、教科の学び(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(家庭)、同(体育)、英語科・外国語活動の学び、国語科教育法、算数科教育法、社会科教育法、理科教育法、生活科教育法、音楽科教育法、図画工作科教育法、家庭科教育法、体育科教育法、初等英語科教育法、教育実習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、教職実践演習(幼・小)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上、教材の研究と開発(国語)、同(算数)、同(社会)、同(理科)、同(生活)、同(音楽)、同(図画工作)、同(体育)、同(英語)のうち4単位以上、国語科教育法演習、算数科教育法演習、社会科教育法演習、理科教育法演習、生活科教育法演習、音楽科教育法演習、図画工作科教育法演習、体育科教育法演習、初等英語科教育法演習のうち4単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

- (注)
- ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ①授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更
 - ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更(元の科目名に(幼・小)または(小)を追記)
 - ・教育の思想と歴史(幼・小) ・発達と学習(幼・小) ・教育方法学(幼・小) ・教育の制度と経営(幼・小)
 - ・特別支援教育(幼・小) ・道徳教育の理論と方法(小) ・特別活動指導法(小) ・生徒指導論(小)
 - ・学校教育相談(幼・小) ・総合的な学習の時間の指導法(小) ・進路指導とキャリア教育(小)
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名及び履修区分を変更
 - ・「教育・保育のカリキュラムマネジメント」を「保育・教育課程論」に変更し、「選択」から「必修」に変更
- ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・学校教育相談(幼・小)(准教授1から兼任1に変更)
 - ・体育科教育法(教授1から教授1、兼任1に変更)
 - ・子どもと保育内容(表現)(教授1、講師1から教授1、講師1、兼任1に変更)
 - ・教材の研究と開発(言葉)(准教授1から准教授1、兼任1に変更)
 - ・保育内容の指導法(言葉)(准教授1から准教授1、兼任1に変更)
- ・昇任人事により、専任教員等の配置を変更
 - ・日本語学概論(准教授1から教授1に変更)
 - ・子どもと保育内容(言葉)(准教授1から教授1に変更)
- ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更
 - ・英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ(兼任2から兼任8に変更)
 - ・障害者コミュニケーション技術(兼任1から兼任6に変更)

【令和2年度】

- ・指導体制の充実を図るため、「幼児の理解」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「児童の理解」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」「准教授1名」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「野外活動」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・講師辞任により、「教科の学び(音楽)」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」、兼任・兼任を「5」から「6」に変更
- ・兼任教員辞任及び指導体制の充実を図るため、「社会的養護内容」の兼任・兼任を「1」から「3」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「学校教育の体験活動(小)」の専任教員等の配置を「教授1名」から「教授2」「准教授1名」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「幼児教育の体験活動」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更
- ・専任教員の時間割の都合により、「日本国憲法」の専任教員等の配置を「教授1」から「なし」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅠ」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅡ」の兼任・兼任「1」を追加
- ・兼任教員1名で担当することとしたため、「アジアと日本」の兼任・兼任を「2」から「1」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「地域と社会」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅢ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅣ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅰ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅱ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・兼任教員辞任により、「運動学演習Ⅰ」の兼任・兼任を「1(兼任)」から「2(兼任)」に変更
- ・授業内容の見直しのため、「障害者コミュニケーション技術」の兼任・兼任を「1」から「4」に変更

【令和3年度】

- ・授業実施方法の見直しにより、「幼児の理解」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に変更
- ・授業実施方法の見直しにより、「児童の理解」の専任教員等の配置を「教授2」「准教授1」から「教授1」「准教授1」「講師1」に変更
- ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更
 - 「保育・教育課論」を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更
 - 「保育原理」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - 「家庭支援論」を「准教授1」「兼任1」から「教授1」「兼任1」に変更
 - 「英語基礎演習」を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更
 - 「英語学概論」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - 「保育内容総論」を「准教授2」から「教授2」に変更
 - 「教材の研究と開発(言葉)」を「准教授1」「兼任1」から「教授1」「兼任1」に変更
 - 「保育内容の指導法(言葉)」を「准教授1」「兼任1」から「教授1」「兼任1」に変更
 - 「乳児保育論」及び「乳児保育」を「准教授1」から「教授1」にそれぞれ変更
 - 「幼児教育の体験活動」を「准教授3」から「教授2」「准教授1」に変更
- ・授業実施方法の見直しにより、「教科の学び(国語)」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更
- ・専任教員(講師)採用に伴い、「教科の学び(音楽)」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更、及び「保育内容の指導法(表現)」の専任教員等の配置を「教授1」「講師1」「兼任1」から「教授1」「講師1」に変更
- ・担当教員1名辞任のため、「社会的養護内容」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・担当教員の変更のため、「教育実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」「准教授1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習Ⅰ(保育所)」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習Ⅰ(施設)」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習ⅠA」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習ⅠB」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「教授1」「兼任1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「保育実習Ⅲ」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1」「兼任1」に変更
- ・担当教員の昇進及び新規専任教員の雇用のため、「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」「教育学研究Ⅲ」「教育学研究Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授7」「准教授7」「講師1」から「教授9」「准教授5」「講師2」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「くらしと社会福祉」の兼任教員の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・担当教員の退職に伴い前期と後期で担当を分担することとしたため、「食の科学」の兼任教員の配置を「兼任1」から「兼任1」「兼任1」に変更
- ・クラス編成の見直しのため、「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」の兼任教員の配置を「兼任8」から「兼任7」に変更
- ・クラス編成の見直しのため、「英語コミュニケーションⅢ」及び「英語コミュニケーションⅣ」の兼任教員の配置を「兼任6」から「兼任5」に変更
- ・編成上の都合により、「運動学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任2」から「兼任3」に変更
- ・編成上の都合により、「図書館情報技術論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更
- ・担当教員辞任のため「図書館サービス概論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「准教授1」に変更

【令和4年度】

- ・教育職員免許法施行規則の一部改正により、「教育方法学（幼・小）」を「教育方法学（幼・小）（情報通信技術の活用含む）」に変更
- ・承認人事により、専任教員の配置を変更
 - ・「教育の思想と歴史（幼・小）」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「教師・保育者論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「教育方法学（幼・小）（情報通信技術の活用含む）」（准教授1、教授1から教授2に変更）
 - ・「児童の理解」（教授1、准教授1、講師1から教授1、准教授2に変更）
 - ・「教育の制度と経営（幼・小）」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「道徳教育の理論と方法（小）」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「教科の学び（音楽）」（講師2、兼任6から准教授1、講師1、兼任6に変更）
 - ・「音楽科教育法」（講師1から准教授1に変更）
 - ・「音楽科教育法演習」（講師1から准教授1に変更）
 - ・「教材の研究と開発（音楽）」（講師1から准教授1に変更）
 - ・「学校教育の体験活動（小）」（教授2、講師1から教授2、准教授1に変更）
 - ・「教育学入門」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「教育学研究Ⅰ」（教授9、准教授5、講師2から教授11、准教授4、講師1に変更）
 - ・「教育学研究Ⅱ」（教授9、准教授5、講師2から教授11、准教授4、講師1に変更）
 - ・「教育学研究Ⅲ」（教授9、准教授5、講師2から教授11、准教授4、講師1に変更）
 - ・「教育学研究Ⅳ」（教授9、准教授5、講師2から教授11、准教授4、講師1に変更）
 - ・「卒業研究」（教授7、准教授7、講師2から教授11、准教授4、講師1に変更）
 - ・「メディアと社会」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館サービス特論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報サービス演習」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報サービス論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館サービス概論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館概論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「学校経営と学校図書館」（准教授1、兼任1から教授1、兼任1に変更）
 - ・「学校図書館メディアの構成」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報メディアの活用」（准教授1から教授1に変更）
- ・クラス数増の必要が生じたため、「英語コミュニケーションⅠ」の専任教員等の配置を「兼任7」から「兼任8」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「英語コミュニケーションⅡ」の専任教員等の配置を「兼任7」から「兼任8」に変更
- ・講師辞任により、「運動学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「情報処理演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「くらしと自然」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
21 科目	157 科目	18 科目	196 科目	22 科目 [1]	156 科目 [Δ1]	18 科目 [—]	196 科目 [—]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{196} = \boxed{}0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の建て替えにより 校舎敷地が減少した			
	校 舎 敷 地	26,15826,362㎡	㎡	㎡	26,15826,362㎡				
	運 動 場 用 地	15,912㎡	㎡	㎡	15,912㎡				
	小 計	42,07042,274㎡	㎡	㎡	42,07042,274㎡				
	そ の 他	27,411㎡	㎡	㎡	27,411㎡				
	合 計	69,48169,685㎡	㎡	㎡	69,48169,685㎡				
(2) 校 舎	専 用	25,498㎡	㎡	㎡	25,498㎡				
	(25,498㎡)	(㎡)	(㎡)	(25,498㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	3室	19室	5室	1室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学部 教育学科			23 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本		
		冊	種	〔うち外国書〕	点	点	点		
	教育学部	95,965 [18,972] 96,114 [18,973]	828 [300] (526 [8])	293 [292] (305 [304])	1560 (1557)	246 (208)	15 (6)		
	計	95,965 [18,972] 96,114 [18,973]	828 [300] (526 [8])	293 [292] (305 [304])	1560 (1557)	246 (208)	15 (6)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	3,000㎡		290席	300,000冊					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		フール: 827㎡				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	入学金の金額を改訂したため、1年次納付金の金額を修正(2)
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円	
		共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1290+250千円	1020千円	1020千円	1020千円	0千円	0千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	広島文教大学						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	150	0	600	学士(教育学)	1.11	1.15	なし	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
教育学科	4	150	0	600	学士(教育学)	1.11	1.15	なし	令和元	同上	
初等教育専攻	4	120	0	480	学士(教育学)	1.13	1.12	なし	令和元	同上	
中等教育専攻	4	30	0	120	学士(教育学)	1.04	1.26	なし	令和元	同上	
人間科学部	4	240	3年次35	1,030	-	1.05	0.99	-	昭和41	同上	
初等教育学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	-	-	昭和56	同上	令和元年学生募集停止
人間福祉学科	4	60	3年次20	280	学士(文学)	1.07	0.91	-	平成12	同上	入学定員変更(△20)
心理学科	4	50	3年次10	220	学士(文学)	1.60	1.86	-	平成14	同上	入学定員変更(△20)
人間栄養学科	4	70	0	280	学士(栄養学)	0.79	0.80	-	平成14	同上	
グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次5	250	学士(文学)	0.86	0.56	-	平成22	同上	入学定員変更(△10)
大学全体	4	390	35	1,630	-	1.07	1.05	-	-	同上	

大学の名称	広島文教大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人間科学研究科	2	15	-	30	-	0.21	0.53	-	昭和62	広島県広島市安佐北区可部東1-2-1	
教育専攻(修士課程)	2	15	-	30	修士(文学)	0.21	0.53	-	昭和62	同上	
大学院全体	2	30	-	30	-	0.21	0.53	-	-	同上	

大学の名称	〇〇短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
該当なし											

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学修士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	河村 大造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)	食の科学
兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼任	准教授	西山 美香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学) ※	子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田村 進 (49) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学修士	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ 健康とスポーツ
兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	大学での学びⅠ アジアと日本 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 生涯学習概論 プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	准教授	清水 克之 (51) <平成31年4月> 修士(保健福祉学)	社会福祉 児童家庭福祉 日本国憲法 ※ くらしと社会福祉
兼任	准教授	西山 美香 (55) <平成31年4月> 修士(保健学) ※	子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (62) <平成31年4月> 教育学修士	保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田村 進 (50) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森下 要治 (53) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任	教授	小田 典子 (61) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	黒川 知則 (69) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学
兼任	教授	田頭 穂積 (68) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (61) <平成31年4月> 文学修士	大学での学びⅠ 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 障害者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (62) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (56) <平成31年4月> 博士(史学)	文教学入門 人生論 大学での学びⅡ アジアと日本 障害者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	教授	菅井 直也 (65) <令和2年4月> 教育学修士	地域と社会
兼任	教授	木下 英司 (52) <令和3年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	西山 美香 (57) <平成31年4月> 修士(保健学) ※	子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (64) <平成31年4月> 教育学修士	保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※ 保育実習Ⅰ(保育所) 保育実習Ⅱ 保育実習指導ⅠB 保育実習指導Ⅱ
兼任	教授	田村 進 (51) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森下 要治 (55) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任	教授	小田 典子 (63) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	田頭 穂積 (69) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (57) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (62) <平成31年4月> 文学修士	大学での学びⅠ 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 障害者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (63) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (57) <平成31年4月> 博士(史学)	文教学入門 人生論 大学での学びⅡ アジアと日本 障害者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	教授	菅井 直也 (67) <令和2年4月> 教育学修士	くらしと社会福祉 地域と社会
兼任	教授	木下 英司 (53) <令和3年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	西山 美香 (58) <平成31年4月> 修士(保健学) ※	子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	教授	木村 敦子 (65) <平成31年4月> 教育学修士	保育の表現技術Ⅰ ※ 特別支援保育 ※
兼任	教授	田村 進 (52) <平成31年4月> 博士(教育学)	教科の学び(体育) ※
兼任	教授	森下 要治 (55) <平成31年4月> 文学修士※	文学を読む意味
兼任	教授	小田 典子 (63) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	田頭 穂積 (70) <平成31年4月> 文学修士※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (57) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解Ⅰ 異文化への理解Ⅱ からだと健康
兼任	教授	豊後 宏記 (63) <平成31年4月> 文学修士	大学での学びⅠ 中国の言葉と文化Ⅰ 中国の言葉と文化Ⅱ 中国の言葉と文化Ⅲ 中国の言葉と文化Ⅳ 障害者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法
兼任	教授	松原 淳一 (64) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
兼任	教授	宮崎 洋一 (58) <平成31年4月> 博士(史学)	文教学入門 人生論 大学での学びⅡ アジアと日本 障害者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	教授	菅井 直也 (67) <令和2年4月> 教育学修士	くらしと社会福祉 地域と社会
兼任	教授	木下 英司 (53) <令和3年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	西山 美香 (58) <平成31年4月> 修士(保健学) ※	子どもの保健Ⅰ 子どもの保健Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	阿 武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	伊 藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	准教授	尾 崎 英 司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	准教授	溝 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼任	講師	塩 田 良 子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ミニプロジェクトとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黒 飛 知 香 (38) <平成31年4月> 博士(農学)	食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	阿 武 久美子 (51) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	伊 藤 由美子 (51) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	教授	尾 崎 英 司 (56) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	准教授	溝 淵 淳 (45) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼任	講師	塩 田 良 子 (34) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小 原 寿 美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ミニプロジェクトとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (31) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (50) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (46) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黒 飛 知 香 (38) <平成31年4月> 博士(農学)	食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	阿 武 久美子 (52) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	伊 藤 由美子 (52) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	教授	尾 崎 英 司 (57) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	准教授	溝 淵 淳 (46) <平成31年4月> 修士(社会福祉学)	地域と社会
兼任	准教授	宇 藤 實 千 賀 子 (31) <令和2年4月> 教育学士	社会福祉 児童家庭福祉 社会的養護
兼任	講師	塩 田 良 子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小 原 寿 美 (52) <平成31年4月> 修士(文学)	大学での学びⅠ 社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ミニプロジェクトとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (48) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (32) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (51) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (38) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	黒 飛 知 香 (39) <平成31年4月> 博士(農学)	食の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	阿 武 久美子 (53) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	伊 藤 由美子 (53) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	教授	尾 崎 英 司 (58) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	講師	塩 田 良 子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小 原 寿 美 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	大学での学びⅠ 社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ミニプロジェクトとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (49) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (33) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (52) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (48) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (39) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	准教授	阿 武 久美子 (54) <平成31年4月> 博士(薬学)	社会と生命科学
兼任	准教授	伊 藤 由美子 (54) <平成31年4月> 家政学士	食生活と健康 ※
兼任	教授	尾 崎 英 司 (59) <平成31年4月> 工学修士、博士(薬学)	環境の科学
兼任	講師	塩 田 良 子 (37) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	子どもの食と栄養
兼任	講師	小 原 寿 美 (54) <平成31年4月> 修士(文学)	大学での学びⅠ 社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ミニプロジェクトとリサーチ ビジネス文書
兼任	講師	和 上 順 子 (50) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Arthur Rutson-Griffiths (34) <平成31年4月> Master of Arts in TEACHING ENGLISH TO SPEAKERS OF OTHER LANGUAGES (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Richard Terry Sugg (53) <平成31年4月> Master of Arts in Japanese Language and Society (英国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Gary Cook Graham (49) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (ニュージーランド)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (40) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)	氏名 (年齢)
		<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等	<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名				担当授業科目名	
兼任	講師	Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米國)	Kelly Eileen Rose (38) <平成31年4月> Master of Education (米國)	Kelly Eileen Rose (40) <平成31年4月> Master of Education (米國)	Kelly Eileen Rose (41) <平成31年4月> Master of Education (米國)		
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		
兼任	講師	Lorna Layantes Beduya (46) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English(ワシントン)	Lorna Layantes Beduya (47) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English(ワシントン)	Lorna Layantes Beduya (48) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English(ワシントン)	Lorna Layantes Beduya (48) <平成31年4月> Doctor of Philosophy English(ワシントン)		
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV		
兼任	講師	Julia Daley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)	Julia Daley Amalia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)	Julia Daley Amalia (30) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)	Julia Daley Amalia (31) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米國)		
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		
兼任	講師	Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)	Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)				
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV				
兼任	講師	Cristina Tong Malimban (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	Cristina Tong Malimban (48) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	Cristina Tong Malimban (49) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	Cristina Tong Malimban (49) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)		
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		
			小川 雅史 (60) <令和2年4月> 教育学士	小川 雅史 (61) <令和2年4月> 教育学士	小川 雅史 (62) <令和2年4月> 教育学士		
			学校教育の体験活動(小)	学校教育の体験活動(小)	学校教育の体験活動(小)		
			福田 裕二 (42) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	福田 裕二 (42) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	福田 裕二 (43) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)		
			くらしと社会福祉	くらしと社会福祉	くらしと社会福祉		
			Craig Anthony Nevitt (51) <令和2年4月> MBA		Craig Anthony Nevitt (51) <令和2年4月> MBA		
			英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		
			Lyndon Lehde (43) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米國)	Lyndon Lehde (44) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米國)	Lyndon Lehde (45) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米國)		
			英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV	英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV		
					阿部 夏希 (37) <令和3年4月> 博士(心理学)		
					コミュニケーションとソーシャル スキル		
					阿部 夏希 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)		
					コミュニケーションとソーシャ ルスキル		
					Jordan David Svien (38) <令和3年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英國)		
					英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV		
					Stachue Peter Tu (29) <令和3年4月> 博士(文学)		
					英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		
					藤岡 華代 (38) <令和3年4月> 学士(家政学)		
					食生活と健康※		
兼任	助教	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	戸松 美紀子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)				
		食生活と健康 ※	食生活と健康 ※				
					Jordan David Svien (39) <令和3年4月> Master of Arts(Teaching English as a Foreign/Second Language) (英國)		
					英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV		
					藤岡 華代 (39) <令和3年4月> 学士(家政学)		
					食生活と健康※		
					五百竹 亮丞 (29) <令和3年4月> 修士(マネジメント)		
					地域と社会		
					山口 大貴 (27) <令和3年4月> 博士(健康科学)		
					食の科学		
					山口 大貴 (28) <令和3年4月> 博士(健康科学)		
					食の科学		
					Frenoh Matthew Douglas (47) <令和4年4月> Master of Arts in Teaching English to Speakers of Other Languages(英國)		
					英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化 I フランス語の言葉と文化 II フランス語の言葉と文化 III フランス語の言葉と文化 IV
兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション技術
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (76) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化 I フランス語の言葉と文化 II フランス語の言葉と文化 III フランス語の言葉と文化 IV
兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	くらしと法律
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (77) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	河野 美紗 (38) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	戸板 律子 (57) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化 I フランス語の言葉と文化 II フランス語の言葉と文化 III フランス語の言葉と文化 IV
兼任	講師	沼田 有史 (65) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (41) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (66) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	森川 信夫 (66) <令和3年4月> 文士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (77) <令和3年4月> 文士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (78) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (70) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (78) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	河野 美紗 (39) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	戸板 律子 (58) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化 I フランス語の言葉と文化 II フランス語の言葉と文化 III フランス語の言葉と文化 IV
兼任	講師	沼田 有史 (66) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (42) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (67) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	森川 信夫 (67) <令和3年4月> 文士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (77) <令和3年4月> 文士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (79) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (71) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	石川 幸枝 (79) <令和4年4月> 短期大学士	保育相談支援
兼任	講師	河野 美紗 (40) <平成31年4月> 専門学校卒	情報処理演習 I 情報処理演習 II
兼任	講師	戸板 律子 (59) <令和2年4月> 学術修士	フランス語の言葉と文化 I フランス語の言葉と文化 II フランス語の言葉と文化 III フランス語の言葉と文化 IV
兼任	講師	沼田 有史 (67) <令和2年4月> 修士(学術)	日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	野村 卓史 (43) <令和2年4月> 博士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	桃井 しづ (67) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション 技術※
兼任	講師	森川 信夫 (68) <令和3年4月> 文士	図書館制度・経営論
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文士	図書館サービス概論
兼任	講師	土肥 善嗣 (80) <令和2年4月> 学士(法学)	情報資源組織論 情報資源組織演習
兼任	講師	堂免 寛 (72) <令和2年4月> 教育学士	学校経営と学校図書館

兼任	講師	山田 洋平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (61) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (72) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園真 智子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	上土 麗 絵 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	大西 章雄 (72) <平成31年4月> 文士	障害者コミュニケーション 技術 ※

兼任	講師	山田 洋平 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (62) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (73) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (36) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園真 智子 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

兼任	講師	山田 洋平 (40) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (63) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (74) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園真 智子 (36) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

兼任	講師	山田 洋平 (41) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(幼・小)
兼任	講師	大後戸 一樹 (64) <令和2年4月> 博士(教育学)	体育科教育法 ※
兼任	講師	友定 寛治 (75) <令和3年4月> 教育学修士	教材の研究と開発(音楽) ※
兼任	講師	中井 悠加 (38) <令和2年4月> 博士(教育学)	保育内容の指導法(音楽) ※
兼任	講師	園真 智子 (37) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	川本 忠夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	
兼任	講師	藤田 明子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	山本 和奈 (80) <平成31年4月> 修士	障害者コミュニケーション技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大野内 豊 (35) <平成31年4月> 修士(教育学) ※	教科の学び(音楽)
兼任	講師	廣江 宏明 (57) <令和2年4月> 博士(教育学)	教科の学び(理科)
兼任	講師	新宅 由三枝 (48) <令和2年4月> 修士	社会的養護内容 ※
兼任	講師	藤原 みどり (43) <令和2年4月> 修士(医療福祉学)	社会的養護内容 ※
兼任	講師	吉村 光 (78) <令和2年4月> 経済学	社会的養護内容 ※
兼任	講師	浦川 麗二朗 (28) <令和2年4月> 修士(法学)	日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師	中本 慶彦 (31) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 孝彦 (70) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (52) <令和2年4月> 修士(文化史)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 図書館情報技術論
兼任	講師	尾崎 雄祐 (26) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (37) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (59) <令和2年4月> ※	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	湯浅 理枝 (41) <令和2年9月> 修士(子ども学)	教科の学び(体育)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	廣江 宏明 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)	教科の学び(理科)
兼任	講師	新宅 由三枝 (49) <令和2年4月> 修士	社会的養護内容 ※
兼任	講師	藤原 みどり (45) <令和2年4月> 修士(医療福祉学)	社会的養護内容 ※
兼任	講師	浦川 麗二朗 (29) <令和2年4月> 修士(法学)	日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師	中本 慶彦 (32) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 孝彦 (71) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (53) <令和2年4月> 修士(文化史)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 図書館情報技術論
兼任	講師	尾崎 雄祐 (27) <令和2年4月> 博士(教育学)	運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (38) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (60) <令和2年4月> ※	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	湯浅 理枝 (42) <令和2年9月> 修士(子ども学)	教科の学び(体育)
兼任	講師	岩田 真太郎 (40) <令和3年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ
兼任	講師	黒川 知香 (40) <令和3年4月> 修士(農学)	食の科学
兼任	講師	柳本 真子 (50) <令和3年4月> 教育学士	運動学演習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	廣江 宏明 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)	教科の学び(理科)
兼任	講師	新宅 由三枝 (50) <令和2年4月> 修士	社会的養護内容 ※
兼任	講師	藤原 みどり (45) <令和2年4月> 修士(医療福祉学)	社会的養護内容 ※
兼任	講師	中本 慶彦 (33) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 孝彦 (72) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (54) <令和2年4月> 修士(文化史)	図書館情報技術論
兼任	講師	尾崎 雄祐 (28) <令和2年4月> 博士(教育学)	運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (39) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (61) <令和2年4月> ※	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	湯浅 理枝 (43) <令和2年9月> 修士(子ども学)	教科の学び(体育)
兼任	講師	岩田 真太郎 (41) <令和3年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ
兼任	講師	光岡 義星 (43) <令和3年4月> 修士(医療福祉学)	社会福祉
兼任	講師	神代 真恵 (32) <令和3年4月> 修士(法学)	くらしと法律

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を入力してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 ・ その上で、**履修歴又は届出時から変更となっている箇所は大学の赤字としてください。**
 ・ 各職の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、今崎浩教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法（小）※」に、今崎浩教授（専任）担当科目「生徒指導論※」を「生徒指導論（小）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により、川西正行教授（専任）担当科目「体育科教育法」を「体育科教育法※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、杉山浩之教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（幼・小）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により杉山浩之教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により上村加奈准教授（専任）担当科目「教育・保育のカリキュラムマネジメント※」を「保育・教育課程論※」に、「保育内容の指導法（言葉）」を「保育内容の指導法（言葉）※」に、「教材の研究と開発（言葉）」を「教材の研究と開発（言葉）※」に変更
- ・黒木晶子准教授（専任）が昇任したため、職名を教授に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、庄（小川）ゆかり准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（幼・小）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、白石宗人准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史（幼・小）」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営（幼・小）」に、「道徳教育の理論と方法」を「道徳教育の理論と方法（小）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、新見直子准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（幼・小）※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育（小）」、「生徒指導論※」を「生徒指導論（小）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、牧亮太准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（幼・小）※」に変更
- ・河村大造教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・尾崎英司准教授（兼任）が昇任したため、職名を教授に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・専任教員が辞退したため、黒飛知香講師（兼任）担当授業科目「食の科学」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Malimban講師（兼任）を挿入 担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・教職課程認定における指摘により高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法」に変更
- ・教職課程認定における指摘により善本桂子講師（兼任）担当科目に「子どもと保育内容（表現）※」を追加
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区分するため、宮本秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育」を「特別支援教育（幼・小）」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ（兼任）講師担当科目「障害者コミュニケーション技術」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により山田洋平講師（兼任）担当授業科目「学校教育相談（幼・小）」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により大後戸一樹講師（兼任）担当授業科目「体育科教育法※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により友定賢治講師（兼任）担当授業科目「教材の研究と開発（言葉）※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により中井悠加講師（兼任）担当授業科目「保育内容の指導法（言葉）※」を挿入
- ・教職課程認定における指摘により園貞智子樹講師（兼任）担当授業科目「生涯学習概論」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西尊雄講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈講師（兼任）担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入

【令和2年度】

- ・指導体制の充実を図るため、村上典章教授（専任）の担当授業科目に「児童の理解」及び「学校教育の体験活動（小）」を追加
- ・時間割の都合により、村上典章教授（専任）の担当授業科目から「日本国憲法※」を削除
- ・指導体制の充実を図るため、森哲之教授（専任）の担当授業科目に「野外活動」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、上村加奈准教授（専任）の担当授業科目に「幼児の理解」及び「幼児教育の体験活動」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、三田幸司准教授（専任）の担当授業科目に「児童の理解」及び「学校教育の体験活動（小）」を追加
- ・大野内愛講師（専任）辞任により専任教員から削除
- ・専任教員辞任により、長澤希講師（専任）の担当授業科目に「音楽科教育法」「音楽科教育法演習」「教材の研究と開発（音楽）」を追加
- ・石井宏佳教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・時間割の都合により、豊後宏記教授（兼任）担当授業科目から「アジアと日本」を削除
- ・指導体制の充実を図るため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅡ」を追加
- ・授業内容の見直しのため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「障害者コミュニケーション技術」を追加
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、菅井直也教授（兼任）に「地域と社会」を挿入
- ・清水克之准教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・兼任教員辞任により、宇都宮千賀子准教授（兼任）、担当授業科目「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」を挿入
- ・指導体制の充実を図るため、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅠ」を追加
- ・担当教員の変更のため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除
- ・担当教員の変更のため、Gary Cook Graham講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を削除
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Tyler Montgomery講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、小川雅史講師（兼任）、担当授業科目「学校教育の体験活動（小）」を挿入
- ・兼任教員辞任により、棚田裕二講師（兼任）、担当授業科目「くらしと社会福祉」を挿入
- ・指導体制の充実を図るため、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lyndon Lehde講師（兼任）担当授業科目「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入
- ・吉田裕午講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・塚村英幸講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・衛藤吉則講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山川秀道講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山口聡講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・上土居理絵講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・大西尊雄講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・川本忠夫講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・春田明子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山本和奈講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・大野内愛講師（専任）辞任により兼任教員として担当授業科目「教科の学び（音楽）」を挿入
- ・兼任教員辞任により、鹿江宏明講師（兼任）、担当授業科目「教科の学び（理科）」を挿入
- ・兼任教員辞任により、新宅由三枝講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入
- ・兼任教員辞任により、藤原どり講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入
- ・兼任教員辞任により、吉村光講師（兼任）、担当授業科目「社会的養護内容※」を挿入
- ・専任教員の時間割の都合及び兼任教員辞任により、浦川源二郎講師（兼任）、担当授業科目「日本国憲法」「くらしと法律」を挿入
- ・兼任教員辞任により、中本慶彦講師（兼任）、担当授業科目「現代思想と哲学」を挿入
- ・兼任教員辞任により、河辺幸雄講師（兼任）、担当授業科目「人権問題の歩みとその展望」を挿入

- ・クラス数を増やす必要が生じたため、川和田晶子講師（兼任）、担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、村上妃斗美講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」「運動学演習Ⅲ」「運動学演習Ⅳ」を挿入
- ・授業内容の見直しのため、清水和行講師（兼任）、担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・6月中旬頃、指導体制充実のため、豊後宏記教授（兼任）の担当授業科目に「障害者コミュニケーション技術※」を追加
- ・後期開始前、兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）の担当授業科目に「運動学演習Ⅱ」「健康とスポーツ」を追加
- ・後期開始前、兼任教員辞任により、湯浅理枝講師（兼任）、担当授業科目「教科の学び（体育）」を挿入

【令和3年度】

- ・時間割の都合により、川西正行教授（専任）の担当授業科目から「運動学演習Ⅰ」を削除
- ・授業実施方針の変更により、佐伯昌郎教授（専任）の担当授業科目から「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」を削除
- ・授業実施方針の変更により、杉山浩之教授（専任）の担当授業科目から「保育実習指導ⅠB」を削除
- ・授業実施方針の変更により、橋村勝明教授（専任）「教科の学び（国語）」の授業実施方法をオムニバスから単独に変更
- ・授業実施方針の変更により、村上典章教授（専任）の担当授業科目から「児童の理解」を削除
- ・授業実施方針の変更により、森哲之教授（専任）の担当授業科目から「教科の学び（国語）」を削除
- ・上利学准教授（専任）、上村加奈准教授（専任）、田中崇教准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・授業実施方針の変更により、上村加奈教授（専任）の担当授業科目に「保育実習指導ⅠB」を追加し、「幼児の理解」を削除
- ・授業実施方針の変更により、三田幸司准教授（専任）の担当授業科目に「教育実習Ⅰ」を追加し、「学校教育の体験活動（小）」を削除
- ・兼任教員の辞任により、庄ゆかり准教授（専任）の担当授業科目に「図書館サービス概論」を追加。時間割の都合により、「図書館情報技術論」を削除
- ・授業実施方針の変更により、白石崇人准教授（専任）の担当授業科目に「教育実習Ⅱ」「教育実習Ⅲ」を追加
- ・新規雇用により、長澤希講師（専任）の担当授業科目から「子どもと保育内容（表現）」「教材の研究と開発（表現）」「保育の表現技術Ⅰ」「保育内容の指導法（表現）」を削除、また、指導体制の変更により「学校教育の体験活動（小）」を追加
- ・新規雇用により、平山裕基講師（専任）担当授業科目に「教科の学び（音楽）」「子どもと保育内容（表現）」「教材の研究と開発（表現）」「保育の表現技術Ⅰ」「保育内容の指導法（表現）」「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」「教育学研究Ⅲ」「教育学研究Ⅳ」「卒業研究」を挿入
- ・授業実施方針の変更により、木村敦子教授（兼任）の担当授業科目に「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅱ」「保育実習指導ⅠB」「保育実習指導Ⅱ」を追加
- ・退職により、黒川知則教授（兼任）を削除
- ・授業実施方針の変更により、菅井直也教授（兼任）の担当授業科目に「くらしと社会福祉」を追加
- ・兼任教員の退職により、木下英司教授（兼任）担当授業科目に「社会と生命科学」を挿入
- ・退職により、溝淵淳准教授（兼任）を削除
- ・授業実施方針の変更により、宇都宮千賀子准教授（兼任）の担当授業科目に「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」「保育実習指導ⅠA」「保育実習指導Ⅲ」を追加
- ・新規雇用により、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目から「コミュニケーションとソーシャルスキル」を削除
- ・授業実施方針の変更により、Arthur Rutson-Griffiths講師（兼任）の担当授業科目から「イングリッシュワークショップⅢ」「イングリッシュワークショップⅣ」を削除
- ・退職により、黒飛知香講師（兼任）を削除
- ・退職により、Tyler Montgomery講師（兼任）を削除
- ・新規雇用により、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）を担当教員表から削除
- ・新規雇用により、阿部夏希講師（兼任）担当授業科目に「コミュニケーションとソーシャルスキル」を挿入
- ・授業実施方針の変更により、Jordan David Svien講師（兼任）担当授業科目に「イングリッシュワークショップⅢ」「イングリッシュワークショップⅣ」を挿入
- ・新規雇用により、Stachus Peter Tu講師（兼任）に担当授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・新規雇用により、藤岡華代講師（兼任）担当授業科目に「食生活と健康※」を挿入
- ・退職により、戸松美紀子助教（兼任）を削除
- ・新規雇用により、五百竹亮丞助教（兼任）担当授業科目に「地域と社会」を挿入
- ・新規雇用により、山口大貴助教（兼任）担当授業科目に「食の科学」を挿入
- ・新規雇用により、二宮恵子講師（兼任）の担当授業科目から「保育内容の指導法（表現）」を削除し、兼任教員の辞任のため「教科の学び（音楽）」を追加
- ・辞任により、藤澤登美子講師（兼任）を削除
- ・退職により、大野内愛講師（兼任）を削除
- ・辞任により、吉村光講師（兼任）を削除
- ・時間割の都合のため、川和田晶子講師（兼任）の担当授業科目に「図書館情報技術論」を追加
- ・担当教員の変更により、尾崎雄祐講師（兼任）の担当授業科目から「運動学演習Ⅰ」を削除、また、保有学位を修士から博士に変更
- ・担当教員の変更により、岩田昌太郎講師（兼任）担当授業科目に「運動学演習Ⅰ」を挿入
- ・退職により、黒飛知香講師を兼任教員から兼任教員に変更し、担当授業科目に「食の科学」を挿入
- ・担当を変更し、橋本直子講師（兼任）担当授業科目に「運動学演習Ⅰ」を挿入

【令和4年度】

- ・教育職員免許法施行規則の一部改正により、杉山浩之教授（専任）、庄（小川）ゆかり教授（専任）の担当授業科目「教育方法学（幼・小）」の科目名を「教育方法学（幼・小）（情報通信技術の活用含む）」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、上利学教授（専任）の担当授業科目に「言葉とコミュニケーション」を挿入
- ・庄（小川）ゆかり准教授（専任）、白石崇人准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・時間割の都合により、三田幸司准教授（専任）の担当科目から「くらしと自然」を削除
- ・長澤希講師（専任）の昇任により職名を准教授に変更
- ・授業実施方針の変更により、植田智教授（兼任）の担当授業科目に「人生論」を挿入
- ・授業実施方針の変更により、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目から「人生論」を削除
- ・西山美香准教授（兼任）の昇任により職名を教授に変更
- ・時間割の都合により、宇都宮千賀子准教授（兼任）の担当授業科目から「社会福祉」を削除
- ・塩田良子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・和上順子講師（兼任）の昇任により職名を准教授に変更
- ・Gary Cook講師（兼任）辞任により、担当表から削除
- ・出向により、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）、Cristina Tong Malimban講師（兼任）を削除
- ・時間割の都合により、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）及び担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・時間割の都合により、Julia Daley Amelia講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除
- ・時間割の都合により、Stachus Peter Tu講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入
- ・時間割の都合及び新規雇用によりFrench Matthew Douglas講師（兼任）、Gladys Barbara Javier講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・兼任講師辞任により、山本妃奈子准教授（兼任）、担当授業科目「子どもの食と栄養」を挿入
- ・時間割の都合により、川和田晶子講師（兼任）の担当授業科目から「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を削除
- ・浦川源次郎講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・黒飛知香講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・橋本直子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・兼任講師辞任により、柴田佳祐講師（兼任）、担当授業科目「日本国憲法」を挿入
- ・時間割の都合により、山野幸子講師（兼任）、担当授業科目「くらしと自然」を挿入
- ・時間割の都合により、光岡美里講師（兼任）、担当授業科目「社会福祉」を挿入
- ・講師辞任により、神代貢志講師（兼任）、担当授業科目「くらしと法律」を挿入

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A.C教員審査）を受けてください。**A.C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（A.C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	10	2	0	23	1	17	5	1	0	23	1
(11)	(10)	(2)	(0)	(23)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
17	5	1	0	23	1	17	5	1	0	23	1
[6]	[Δ5]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[6]	[Δ5]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{23} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{23} = \boxed{13.04} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
2	講師	大野内 愛	R2.3	選択	教科の学び（音楽）	②	R2.3.31 他大学へ転任のため辞任（2）			
				選択	音楽科教育法	①				
				選択	音楽科教育法演習	①				
				選択	教材の研究と開発（音楽）	①				
				必修	教育学研究Ⅰ	①				
				必修	教育学研究Ⅱ	①				
				必修	教育学研究Ⅲ	①				
				必修	教育学研究Ⅳ	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{23} = 4.34\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員交代(3-②)については、当該教員が担当予定であった9科目のうち8科目を他の専任教員で分担して担当し、残りの1科目については当該教員が兼任教員として担当することとした。このため、学生の履修及び指導上の不都合は生じていない。なお、教員の交代については、年度当初の学年別の履修ガイダンスの際に、学科長、チューター及び教務委員等から学生に直接周知している。また、学内ポータルサイトにシラバスを掲載して事前の周知も行って、履修登録等の混乱は生じていない。今後は、各科目の教育内容及び水準の維持・向上及び当該科目の後任となった専任教員の負担軽減のために、今年度中に必要な教員補充を行うこととしている。(2)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等	履行状況	今後の実施計画
認可時	該当なし		
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	広島文教大学の既設学科等（人間科学部心理学科）の入学定員超過の改善に努めること。	指摘事項（改善） 本学の入学者選抜においては、全ての学部・学科についてアドミッション・ポリシーを学生募集要項に明示し、またいわゆる三つのポリシーを公式ホームページに掲載する等、本学の方針を受験生に周知するよう努めてきている。その結果、令和3年度及び4年度の志願倍率は、大学全体でそれぞれ4.6倍及び4.3倍であったのに対し、人間科学部心理学科にあつてはそれぞれ6.6倍及び7.2倍となり、志願の集中が顕著であった。さらに令和4年度の間科学部心理学科の各選抜種別においては、アドミッション・ポリシー、各選抜の趣旨及び教育の質保証の観点から、入学者が入学定員のおよそ1.3倍以内に収まるよう、令和3年度の入学歩留まり（0.25倍）を目安として合格判定を行ったが、想定以上に高い歩留まり（0.34倍）となり、入学定員を大幅に超過する結果となった。	履行中 これまで同様にアドミッション・ポリシー等の本学の方針の明示に努めるとともに、教育の質保証の観点にいつそう留意し、入学者選抜の合格判定においては、過去のデータを精査した上で、より精度の高い入学歩留まりに基づいた合格判定を行い、入学定員超過の抑制に努める。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置している。目的達成のための具体的事項は、教員8名と事務職員4名（令和4年度）で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。</p> <p>(広島文教大学高等教育研究センター規程 第1条及び第2条)</p> <p>第1条 この規程は、学校法人武田学園組織規程第14条第2項の規定に基づき、広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。</p> <p>第2条 センターは、本学における教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的とする。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>運営委員会を、令和3年度は12回開催し、毎回、ほぼ全員の委員が出席している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>広島文教大学高等教育研究センターの業務（広島文教大学高等教育研究センター規程第3条）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等教育に係る調査及び研究に関すること。 (2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関すること。 (3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関すること。 (4) 情報の公開に関すること。 (5) 将来構想の企画・立案に関すること。 (6) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価及び改善等に関すること。 (7) ファカルティ・デベロップメントに関すること。 (8) センター刊行物の編集及び刊行に関すること。 (9) 研究倫理に関すること。 (10) その他、センターの目的を達成するために必要な業務 <p>高等教育研究センター運営委員会審議事項（広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）の業務及び運営に関すること。 (2) その他センターに関し必要な事項に関すること。 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p><令和3年度実績></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. FD・SD研修会の実施 2. 広島文教大学紀要の発行 3. 広島文教大学高等教育研究の発行 4. 「新任教員研修プログラム」の実施 <p>b 実施方法</p>

1. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

2. 広島文教大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている。
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準維持と教員の研究能力の向上を図っている。

3. 広島文教大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている。
なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準維持と教員の研究能力の向上を図っている。

4. 「新任教員研修プログラム」の実施

専用研修を含めた学内諸研修会への計画的な参加促進及びメンター教員との定期面談により、新任教員が円滑に教育・研究活動や学務に臨むことができるよう努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. FD・SD研修会

夏期（8月26日）：5講座を実施（参加116名、教員の参加80名）
冬期（3月1日）：3講座を実施（参加97名、教員の参加67名）
※新型コロナウイルス感染症対策として、一部非対面形式で実施した。

2. 広島文教大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学紀要56巻を発行し、7編の原著論文を掲載

3. 広島文教大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学高等教育研究第8巻を発行し、3編の原著論文を掲載

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうち公開可能なものを学内共有フォルダに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、努めている。

また、「2. 広島文教大学紀要」及び「3. 広島文教大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から9月、後期は12月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

12-1月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。
また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に謳っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設当初からの本学科への志願者数は、入学定員150名に対して初年度（令和元年度）1,230名（志願倍率8.2倍）、開設2年目（令和2年度）は1,121名（志願倍率7.47倍）、開設3年目（令和3年度）は867名（志願倍率5.78倍）、開設4年目（令和4年度）は814名（5.42倍）となり、となり、これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。

今後も、本学科の特色ある教育の充実を図り、地域社会の要請に貢献する人材を輩出できるよう努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和4年10月1日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和4年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を令和元年度に受審し、評価基準に適合している旨認定された。次回は令和8年度に受審予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード

注3

設置年度 令和 元年度

計画の区分： 学部^{注1}の設置

注1

届出

注2

広島文教大学 教育学部 教育学科 中等教育専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人武田学園
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 学生サポート課

職名・氏名

ニシオキ ハルカ
西沖 悠

電話番号

082-814-9995

（夜間）

082-814-9995

e-mail

gakusapo@h-bunkyo.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

教育学部

＜教育学科＞（中等教育専攻）	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	22
4. 既設大学等の状況	23
5. 教員組織の状況	26
6. 附帯事項等に対する履行状況等	39
7. その他全般的事項	40

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人武田学園

(2) 大学名

広島文教大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒731-0295

広島県広島市安佐北区可部東1-2-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(タケダ ヨシテル) 武田 義輝 (平成25年4月)		
学長	(モリシタ ヨウジ) 森下 要治 (平成29年4月)		
学部長	(オカ トシミチ) 岡 利道 (平成31年4月)	(ハシムラ カツアキ) 橋村 勝明 (令和4年4月)	執行部体制の変更のため (4)
学科長等	(イマザキ ヒロシ) 今崎 浩 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学部 教育学科 中等教育専攻 学士（教育学）	教育学・保育 学関係	4 年	30 人	- 人	120 人	新規入学者を 募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	30 (-) [-]		30 (-) [-]		30 (-) [-]		30 (-) [-]		30 (-) [-]		1.04倍	— 倍	
志願者数	(-) [-]	(-) [-]	374 (-) [-]	- (-) [-]	399 (-) [-]	- (-) [-]	290 (-) [-]	- (-) [-]	278 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	(-) [-]	(-) [-]	373 (-) [-]	- (-) [-]	395 (-) [-]	- (-) [-]	287 (-) [-]	- (-) [-]	276 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	(-) [-]	(-) [-]	100 (-) [-]	- (-) [-]	119 (-) [-]	- (-) [-]	168 (-) [-]	- (-) [-]	193 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	(-) [-]	(-) [-]	30 (-) [-]	- (-) [-]	32 (-) [-]	- (-) [-]	26 (-) [-]	- (-) [-]	38 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A			1.00		1.06		0.86		1.26				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	30 [-] (-)	- [-] (-)	32 [-] (-)	- [-] (-)	26 [-] (-)	- [-] (-)	38 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	28 [-] (-)	- [-] (-)	32 [-] (-)	- [-] (-)	26 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	28 [-] (-)	- [-] (-)	31 [-] (-)
4年次	/						/		/		- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	30 [-] (-)	- [-] (-)					60 [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	- 人	- 人	平成30年度	- 人	- 人	
令和元年度	30 人	2 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	2 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(2人)
令和2年度	60 人	0 人	平成30年度	- 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	86 人	1 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	- 人	
			令和2年度	1 人	- 人	就学意欲の低下(1人)
			令和3年度	0 人	- 人	
令和4年度	123 人	0 人	平成30年度	- 人	- 人	
			令和元年度	0 人	- 人	
			令和2年度	0 人	- 人	
			令和3年度	0 人	- 人	
			令和4年度	0 人	- 人	
合 計		3 人		3 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{30} = \boxed{6.66} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{60} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{86} = \boxed{1.16} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{123} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<教育学部 教育学科>中等教育専攻

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史	1前	2			1						
	発達と学習	1前	2			2						
	日本語学概論	1前	2			1						
	英語基礎演習	2前	2			1						
	教師・保育者論	1後	2			1						
	教育方法学	1後	2			1	1					
	生徒の理解	1後	1			1						
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営	2後	2				1					
	特別支援教育	2後	2									1
計(10科目)	-	-	19	0	0	4	6	0	0	0	0	1
A 教育・保育の基礎的理解	教育・保育のキャリアマネジメント	2前	2			1	1					
	道徳教育の理論と方法	2後	2			1		1				
	特別活動指導法	2後	2			1			1			
	生徒指導論	3前	2			1	1					
	学校教育相談	3前	2			1						
	総合的な学習とアクティブラーニング	3後	2			2						1
	進路指導とキャリア教育	3後	2			2						
	学校間連携教育	4前	2			2						1
	インクルーシブ教育・保育	4前	2			2						1
	学校教育心理学	4前	2			2						1
小計(10科目)	-	-	2	18	0	2	4	1	0	0	0	2
B 領域・教科の専門的事項と指導法	日本語学演習	1後	2			1						
	日本語の文字と語彙	2前	2			1						
	日本語のしくみ	2後	2			1		1				
	日本語の音声	3後	2			1						
	日本語文章論	4前	2			1						
	日本語学講義	4後	2			1						
	表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
	こどもと文学	3後	2			1						
	日本文学講義	4前	2			1						
	日本文学概論	1前	2			1						
	日本文学演習	1後	2			1						
	日本文学の歴史	2前	2			1						1
	漢文学概論	2前	2			2						
	漢文学演習	3前	2			2						
	書写書道演習	3後	2			1						2
f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2						
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			1	2					
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1					
	中等国語科教育法演習	3後	2			1	1					
	Reading Strategies I	1前	2									1
g	Reading Strategies II	1後	2									1
	Writing Strategies	1前	2									1
	英語学概論	1後	2									1
	英語の音声	2前	2				1					
	英語ディスコース研究	3前	2				1					
	英語学研究	3後	2			1						
	英語文学概論	2前	2			1						
	英語文学演習	3後	2			1						
	英語文学研究	4前	2			1						
	英語文学史	2後	2			1						

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2			1							
	発達と学習(中・高)	1前	2				2						
	教師論(中・高)	1後	2				2						
	教育方法学(中・高)(情報通信技術の活用含む)	1後	2									1	
	生徒の理解	1後	1							3			
	野外活動	2前	2							2			
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2							1			
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1	
	計(8科目)	-	-	15	0	0	5	2	0	0	0	0	2
	A 教育・保育の基礎的理解	教育課程論(中・高)	2前	2			1						
道徳教育の理論と方法(中)		2後	2			1							
特別活動指導法(中・高)		2後	2			1						1	
生徒指導論(中・高)		3前	2			1	1						
学校教育相談(中・高)		3前	2			1						1	
総合的な学習の時間の指導法(中・高)		3後	2			2						1	
進路指導とキャリア教育(中・高)		3後	2			2				1			
学校間連携教育		4前	2			2						1	
インクルーシブ教育・保育		4前	2			2						1	
学校教育心理学		4前	2			2				1			
小計(10科目)	-	-	14	6	0	3	1	0	0	0	0	4	
B 領域・教科の専門的事項と指導法	日本語学概論	1前	2			1							
	日本語学基礎演習	1後	2			1							
	日本語の歴史	2後	2			1							
	日本語の音声	3後	2			1							
	日本語の文字と語彙	2前	2			1							
	日本語のしくみ	3前	2			1							
	日本語文章論	3後	2			1							
	日本語学演習	3後	2			1							
	日本語学講義	4前	2			1							
	日本文学概論	1前	2							1			
	日本文学基礎演習	1後	2			1				1			
	日本文学の歴史	2前	2			1				1			
	表象文化と日本文学	3前	2			1				1			
	日本語文化実地演習	2後	2			1				1			
	こどもと文学	3後	2			1							
日本文学演習	3前	2			1				1				
日本文学講義	4前	2			1				1				
漢文学概論	3前	2			2								
漢文学演習	3後	2			2								
書写書道演習	1前	2			2						1		
f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			2							
	中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			1	2						
	中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			1	2						
	中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1						
	中等国語科教育法演習	3後	2			1	1						
	Reading Strategies I	1前	2									1	
g	Reading Strategies II	1後	2									1	
	Writing Strategies	1前	2									1	
	英語学概論	1後	2									1	
	英語基礎演習	2前	2							1			
	英語の音声	2前	2				2			2			
	英語ディスコース研究	3前	2				1			1			
	英語学研究	3後	2				1			1			
	英語文学概論	2前	2							1			
	英語文学演習	3後	2							1			
	英語文学研究	4前	2							1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2							1	
		キャリア形成概論Ⅱ	2前	2							1	
		インターンシップ	2前	2							1	
		プレゼンテーション技法	2後	2							1	
		コミュニケーション・ソーシャルスキル	3前	2							1	
		ビジネス文書	3後	2							1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	6	2	0	0	0	31
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2		1					
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2		1					
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
		情報資源組織演習	2後		2							1
		図書館サービス特論	4後		1		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1						
	学習指導と学校図書館	2後		2		1						
	読書と豊かな人間性	3後		2		1						
	情報メディアの活用	3前		2		1						
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(157科目)			-	42	218	34	10	9	1	0	0	42
卒業要件及び履修方法												
【教養教育科目】												
① 人間学科目群から4単位以上												
② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上												
③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上												
④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上												
【専門教育科目】												
教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目19単位、展開科目・探究科目から必修科目16単位を修得し、教養教育科目・基礎科目・展開科目・実践科目から65単位以上、合計128単位以上修得すること。												
なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。												
《国語教育コース》												
＜中学校教諭一種免許状(国語)＞												
教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語学演習、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語の音声、日本文学演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習の全ての単位を修得し、さらに、日本語文章論、日本語学講義、表象文化と日本文学、子どもと文学、日本文学講義のうち4単位以上を修得すること。												
＜高等学校教諭一種免許状(国語)＞												
上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。												
＜中学校教諭二種免許状(英語)＞												
教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。												
《英語教育コース》												
＜中学校教諭一種免許状(英語)＞												
教育・保育のキャリアマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、英語学概論、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得し、さらに、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。												
＜高等学校教諭一種免許状(英語)＞												
上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後	2								1	
		キャリア形成概論Ⅱ	2前	2								1	
		インターンシップ	2前	2								1	
		プレゼンテーション技法	2後	2								1	
		コミュニケーション・ソーシャルスキル	3前	2								1	
		ビジネス文書	3後	2								1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	2	
教養教育科目 合計(63科目)			-	10	100	0	6	2	0	0	0	0	44
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2								1
		図書館概論	1前		2		1						
		図書館情報技術論	4前		2		1						1
		図書館制度・経営論	3前		2								1
		図書館サービス概論	3前		2								1
		情報サービス論	3後		2		1						
		読書と豊かな人間性	3後		2		1						
		情報サービス演習	4前		2		1						
		図書館情報資源概論	1後		2								1
		情報資源組織論	2前		2								1
		情報資源組織演習	2後		2								1
		図書館サービス特論	4後		1		1						
		図書・図書館史	4後		1								1
司書科目 合計(13科目)			-	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2前		2		1						1	
	学校図書館メディアの構成	1後		2		1							
	学習指導と学校図書館	2後		2		1							
	読書と豊かな人間性	3後		2		1							
	情報メディアの活用	3前		2		1							
司書教諭科目 合計(5科目)			-	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(161科目)			-	57	214	34	12	4	0	0	0	58	
卒業要件及び履修方法													
【教養教育科目】													
① 人間学科目群から4単位以上													
② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上													
③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上													
④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上													
【専門教育科目】													
教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。													
なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。													
《国語教育コース》													
＜中学校教諭一種免許状(国語)＞													
教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写書道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文章論のうち2単位、日本文化実地演習、子どもと文学のうち2単位を修得すること。													
＜高等学校教諭一種免許状(国語)＞													
上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。													
＜中学校教諭二種免許状(英語)＞													
教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語学基礎演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。													
《英語教育コース》													
＜中学校教諭一種免許状(英語)＞													
教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語学基礎演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。													
＜高等学校教諭一種免許状(英語)＞													
上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。													

<中学校教諭二種免許状(国語)>

教育・保育のカリキュラムマネジメント、道徳教育の理論と方法、特別活動指導法、生徒指導論、学校教育相談、総合的な学習とアクティブラーニング、進路指導とキャリア教育、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

<中学校教諭二種免許状(国語)>

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2			1						
	発達と学習(中・高)	1前	2			2						
	教師論(中・高)	1後	2			1	1					1
	教育方法学(中・高)	1後	2									
	生徒の理解	1後	1				1					
	野外活動	2前	2			1						
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2				1					
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1
	計(8科目)	-	15	0	0	3	3	0	0	0	0	2
	A 教育・保育の基礎的理解											
a	教育課程論(中・高)	2前	2			1						
	道徳教育の理論と方法(中)	2後	2			1	1				1	
	特別活動指導法(中・高)	2後	2									
	生徒指導論(中・高)	3前	2			1	1					
	学校教育相談(中・高)	3前	2								1	
	総合的な学習の時間の指導法(中・高)	3後	2								1	
	進路指導とキャリア教育(中・高)	3後	2			1						
b	学校間連携教育	4前	2		2							
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1	
	学校教育心理学	4前	2			1						
小計(10科目)	-	14	6	0	2	2	0	0	0	0	4	
専門教育科目 展開科目	e	日本語学概論	1前	2		1						
		日本語学基礎演習	1後	2		1						
		日本語の歴史	2後	2		1						
		日本語の音声	2後	2		1						
		日本語の文字と語彙	2前	2		1						
		日本語のしくみ	3前	2		1						
		日本語文章論	3後	2		1						
		日本語学演習	3後	2		1						
		日本語学講義	4前	2		1						
		日本文学概論	1前	2								
		日本文学基礎演習	1後	2			1					
		日本文学の歴史	2前	2			1					
		表象文化と日本文学	3前	2		1	1					
		日本語文化実地演習	2後	2			1					1
		こどもと文学	3後	2		1						
		日本文学演習	3前	2		1						
		日本文学講義	4前	2		1						
		漢文学概論	3前	2								1
		漢文学演習	3後	2								2
		書写書道演習	1前	2		1						
	f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2		2						
		中等国語科教育法Ⅰ	2前	2		3	1					
		中等国語科教育法Ⅱ	2後	2		3	1					
		中等国語科教育法Ⅲ	3前	2		1	1					
		中等国語科教育法演習	3後	2		1	1					
	g	Reading StrategiesⅠ	1前	2								1
		Reading StrategiesⅡ	1後	2								1
		Writing Strategies	1前	2								1
		Writing Strategies	1後	2								1
		英語学概論	2前	2								1
	英語基礎演習	2前	2		1	1					1	
	英語の音声	3前	2			1						
	英語ディスコース研究	3後	2		1							
	英語学研究	4前	2			1						
	英語学概論	2前	2		1							
	英語文学演習	3後	2		1							
	英語文学研究	4前	2		1							
	英語文学史	2後	2		1							
	Basic English CommunicationⅠ	1前	2								3	
	Basic English CommunicationⅡ	1後	2								3	
	International Communication StrategiesⅠ	3前	2								1	
	International Communication StrategiesⅡ	3後	2								1	
	English for Education	4前	2		1							
	Academic English	4前	2								1	
	異文化理解	2後	2		2							
	英語科・外国語活動の学び	1後	2		2							
h	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2		1							
	中等英語科教育法Ⅰ	2前	2		1							
	中等英語科教育法Ⅱ	2後	2		1							
	中等英語科教育法Ⅲ	3前	2		1							
	中等英語科教育法演習	3後	2		1							
小計(51科目)	-	4	98	0	7	2	0	0	0	0	7	
計(61科目)	-	18	104	0	9	4	0	0	0	0	11	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2			1						
	発達と学習(中・高)	1前	2			2						
	教師論(中・高)	1後	2			1	1					1
	教育方法学(中・高)	1後	2									
	生徒の理解	1後	1				3					
	野外活動	2前	2				2					
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2				1					
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1
	計(8科目)	-	15	0	0	5	3	0	0	0	0	2
	A 教育・保育の基礎的理解											
a	教育課程論(中・高)	2前	2			1						
	道徳教育の理論と方法(中)	2後	2			1	1				1	
	特別活動指導法(中・高)	2後	2									
	生徒指導論(中・高)	3前	2			1	1					
	学校教育相談(中・高)	3前	2								1	
	総合的な学習の時間の指導法(中・高)	3後	2								1	
	進路指導とキャリア教育(中・高)	3後	2			1						
b	学校間連携教育	4前	2		2							
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1	
	学校教育心理学	4前	2			1						
小計(10科目)	-	14	6	0	2	2	0	0	0	0	4	
専門教育科目 展開科目	e	日本語学概論	1前	2		1						
		日本語学基礎演習	1後	2		1						
		日本語の歴史	2後	2		1						
		日本語の音声	2後	2		1						
		日本語の文字と語彙	2前	2		1						
		日本語のしくみ	3前	2		1						
		日本語文章論	3後	2		1						
		日本語学演習	3後	2		1						
		日本語学講義	4前	2		1						
		日本文学概論	1前	2								
		日本文学基礎演習	1後	2			1					
		日本文学の歴史	2前	2			1					
		表象文化と日本文学	3前	2		1	1					
		日本語文化実地演習	2後	2			1					1
		こどもと文学	3後	2		1						
		日本文学演習	3前	2		1						
		日本文学講義	4前	2		1						
		漢文学概論	3前	2								1
		漢文学演習	3後	2								2
		書写書道演習	1前	2		1						
	f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2		2						
		中等国語科教育法Ⅰ	2前	2		3	1					
		中等国語科教育法Ⅱ	2後	2		3	1					
		中等国語科教育法Ⅲ	3前	2		1	1					
		中等国語科教育法演習	3後	2		1	1					
	g	Reading StrategiesⅠ	1前	2								1
		Reading StrategiesⅡ	1後	2								1
		Writing Strategies	1前	2								1
		Writing Strategies	1後	2								1
		英語学概論	2前	2								1
	英語基礎演習	2前	2		1	1					1	
	英語の音声	3前	2			1						
	英語ディスコース研究	3後	2		1							
	英語学研究	4前	2			1						
	英語学概論	2前	2		1							
	英語文学演習	3後	2		1							
	英語文学研究	4前	2		1							
	英語文学史	2後	2		1							
	Basic English CommunicationⅠ	1前	2								3	
	Basic English CommunicationⅡ	1後	2								3	
	International Communication StrategiesⅠ	3前	2								1	
	International Communication StrategiesⅡ	3後	2								1	
	English for Education	4前	2		1							
	Academic English	4前	2								1	
	異文化理解	2後	2		2							
	英語科・外国語活動の学び	1後	2		2							
h	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2		1							
	中等英語科教育法Ⅰ	2前	2		1							
	中等英語科教育法Ⅱ	2後	2		1							
	中等英語科教育法Ⅲ	3前	2		1							
	中等英語科教育法演習	3後	2		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2	1						
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
		情報資源組織演習	2後		2							1
		図書館サービス特論	4後		2		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		—	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書科目 教諭	学校経営と学校図書館	2前			2	1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後			2	1						
	学習指導と学校図書館	2後			2	1						
	読書と豊かな人間性	3後			2	1						
	情報メディアの活用	3前			2	1						
司書教諭科目 合計(5科目)		—	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(161科目)		—	57	214	34	11	7	0	0	0	53	

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】
 ① 人間学科目群から4単位以上
 ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
 ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
 ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】
 教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《国語教育コース》
 <中学校教諭一種免許状(国語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写書道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文章論のうち2単位、日本文化実地演習、こどもと文学のうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(国語)>
 上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(英語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語文学概論、英語文学演習、英語文学研究、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

《英語教育コース》
 <中学校教諭一種免許状(英語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語文学概論、英語文学演習、英語文学研究、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(英語)>
 上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(国語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2							1
		図書館概論	1前		2	1						
		図書館情報技術論	4前		2		1					
		図書館制度・経営論	3前		2							1
		図書館サービス概論	3前		2							1
		情報サービス論	3後		2		1					
		読書と豊かな人間性	3後		2	1						
		情報サービス演習	4前		2		1					
		図書館情報資源概論	1後		2							1
		情報資源組織論	2前		2							1
		情報資源組織演習	2後		2							1
		図書館サービス特論	4後		2		1					
		図書・図書館史	4後		1							1
司書科目 合計(13科目)		—	0	0	24	1	1	0	0	0	5	
司書科目 教諭	学校経営と学校図書館	2前			2	1					1	
	学校図書館メディアの構成	1後			2	1						
	学習指導と学校図書館	2後			2	1						
	読書と豊かな人間性	3後			2	1						
	情報メディアの活用	3前			2	1						
司書教諭科目 合計(5科目)		—	0	0	10	1	2	0	0	0	1	
総合計(161科目)		—	57	214	34	10	7	0	0	0	55	

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】
 ① 人間学科目群から4単位以上
 ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
 ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
 ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】
 教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《国語教育コース》
 <中学校教諭一種免許状(国語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写書道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文章論のうち2単位、日本文化実地演習、こどもと文学のうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(国語)>
 上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(英語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語文学概論、英語文学演習、英語文学研究、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

《英語教育コース》
 <中学校教諭一種免許状(英語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語文学概論、英語文学演習、英語文学研究、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(英語)>
 上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(国語)>
 教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

- ① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。
- ② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	教育の思想と歴史(中・高)	1前	2			1							
	発達と学習(中・高)	1前	2			2							
	教師論(中・高)	1後	2			1	1					1	
	教育方法学(中・高)	1後	2										
	生徒の理解	1後	1										
	野外活動	2前	2			3							
	教育の制度と経営(中・高)	2後	2				1						
	特別支援教育(中・高)	2後	2									1	
計(8科目)	-	15	0	0	5	3	0	0	0	0	2		
A 教育・保育の基礎的理解	a	教育課程論(中・高)	2前	2			1						
		道徳教育の理論と方法(中)	2後	2			1						
		特別活動指導法(中・高)	2後	2								1	
		生徒指導論(中・高)	3前	2			1	1					
		学校教育相談(中・高)	3前	2								1	
	統合的な学習の時間の指導法(中・高)	3後	2								1		
	進路指導とキャリア教育(中・高)	3後	2				1						
b	学校間連携教育	4前	2			2							
	インクルーシブ教育・保育	4前	2								1		
	学校教育心理学	4前	2				1						
小計(10科目)	-	14	6	0	2	2	0	0	0	0	4		
B 領域・教科の専門的事項と指導法	e	日本語学概論	1前	2			1						
		日本語学基礎演習	1後	2			1						
		日本語の歴史	2後	2			1						
		日本語の音声	3後	2			1						
		日本語の文字と語彙	2前	2			1						
		日本語のしくみ	3前	2			1						
		日本語文章論	3後	2			1						
		日本語学演習	2	2			1						
		日本語学講義	4前	2			1						
		日本文学概論	1前	2				1					
		日本文学基礎演習	1後	2				1					
		日本文学の歴史	2前	2				1					
		表象文化と日本文学	3前	2			1	1					
		日本語文化実地演習	2後	2				1					
		こどもと文学	3後	2			1						
		日本文学演習	3前	2				1					
		日本文学講義	4前	2				1					
		漢文学概論	3前	2								1	
		漢文学演習	3後	2								2	
	書写書道演習	1前	2			1							
	f	教材の研究と開発(中等国語)	3前	2			1						
		中等国語科教育法Ⅰ	2前	2			3	1					
		中等国語科教育法Ⅱ	2後	2			3	1					
		中等国語科教育法Ⅲ	3前	2			1	1					
		中等国語科教育法演習	3後	2			1	1					
		g	Reading StrategiesⅠ	1前	2								1
			Reading StrategiesⅡ	1後	2								1
	Writing StrategiesⅠ		1前	2								1	
	Writing StrategiesⅡ		1後	2								1	
	英語学概論		2前	2			1						
	英語基礎演習		2前	2			2						
	英語の音声		3前	2			1						
英語ディスコース研究	3後		2			1							
英語学研究	4前		2			1							
英語文学概論	2前		2			1							
英語文学演習	3後	2			1								
英語文学研究	4前	2			1								
英語文学史	2後	2			1								
Basic English CommunicationⅠ	1前	2								3			
Basic English CommunicationⅡ	1後	2								3			
International Communication StrategiesⅠ	3前	2								1			
International Communication StrategiesⅡ	3後	2								1			
English for Education	4前	2			1								
Academic English	4前	2								1			
異文化理解	2後	2			2								
英語科・外国語活動の学び	1後	2			2								
h	教材の研究と開発(中等英語)	3前	2			1							
	中等英語科教育法Ⅰ	2前	2			2							
	中等英語科教育法Ⅱ	2後	2			2							
	中等英語科教育法Ⅲ	3前	2			2							
	中等英語科教育法演習	3後	2			2							
小計(51科目)	-	4	88	0	8	1	0	0	0	0	7		
計(61科目)	-	18	104	0	10	4	0	0	0	0	11		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
実践科目	学校教育の体験活動(中・高)	2通		2		3							
	教育実習Ⅳ	3後		2		3	1						
	教育実習Ⅴ	4前		2		2							
	教育実習Ⅵ	4前		2		2							
	教職実践演習(中・高)	4後		2		1							
計(5科目)	-	0	10	0	5	1	0	0	0	0	0		
探求科目	教育学入門	1前・1後		2			1						
	教育学研究Ⅰ	2前		2		6	1						
	教育学研究Ⅱ	2後		2		6	1						
	教育学研究Ⅲ	3前		2		6	1						
	教育学研究Ⅳ	3後		2		6	1						
	卒業研究	4前・4後		4		6	1						
計(6科目)	-	14	0	0	6	2	0	0	0	0	0		
専門教育科目合計(80科目)			-	47	114	0	10	4	0	0	0	13	
教養教育科目	人間学科目群	文法学入門	1前	2									
		日本国憲法	1後	2								1	
		人生論	3前		2							1	
		大学での学びⅠ	1前		1							2	
		大学での学びⅡ	1後		1		1	1				1	
		小計(5科目)	-	4	4	0	1	1	0	0	0	4	
	現代教養科目群	A	現代思想と哲学	2～3	2								2
			日本とヒロシマの歴史	2～3	2								1
			文学を読む意味	2～3	2								1
			言葉とコミュニケーション	2～3	2			1					
			欧米と日本	2～3	2			1					
		B	アジアと日本	2～3	2								1
			社会とジェンダー	2～3	2								1
			くらしの中の心理学	2～3	2								1
			くらしと経済	2～3	2								1
			くらしと法律	2～3	2								1
		C	くらしと社会福祉	2～3	2								2
			地域と社会	2～3	2								2
			子どもと社会	2～3	2								1
			人権問題の歩みとその展望	2～3	2								1
			社会と生命科学	2～3	2								2
国際教育系Ⅱ	食の科学	2～3	2								2		
	からだと健康	2～3	2								2		
	くらしと自然	2～3	2				1						
	環境の科学	2～3	2								1		
	食生活と健康	2～3	2								2		
	メディアと社会	2～3	2					1					
	小計(21科目)	-	0	42	0	2	2	0	0	0	23		
スキル教育科目群	国際教育系Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	1前	2								7	
		英語コミュニケーションⅡ	1後	2								7	
		英語コミュニケーションⅢ	2前		2							5	
		英語コミュニケーションⅣ	2後		2							5	
	情報教育系	イングリッシュワークショップⅠ	3前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅡ	3後		1							1	
		イングリッシュワークショップⅢ	4前		1							1	
		イングリッシュワークショップⅣ	4後		1							1	
		フランスの言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		フランスの言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅰ	2前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅱ	2後		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅲ	3前		2							1	
		中国の言葉と文化Ⅳ	3後		2							1	
		異文化への理解Ⅰ	2前		2							1	
	異文化への理解Ⅱ	2後		2							1		
	生涯教育系	情報処理演習Ⅰ	1前		1							3	
		情報処理演習Ⅱ	1後		1							3	
		情報処理演習Ⅲ	2前		2							1	
情報処理演習Ⅳ		2後		2							1		
運動学演習Ⅰ		1前		1							3		
運動学演習Ⅱ		1-2-3-4後		1							1		
運動学演習Ⅲ		2前		1							1		
運動学演習Ⅳ	2後		1							1			
生涯学習概論	1後		2							1			
健康とスポーツ	1後		1							1			
制作技法演習Ⅰ	3-4期		1		1								
制作技法演習Ⅱ	3-4後		1		1								
障害者コミュニケーション技術	1前		1								4		
小計(31科目)	-	6	42	0	1	0	0	0	0	0	25		
キャリア形成科目群	キャリア形成概論Ⅰ	1後		2							1		
	キャリア形成概論Ⅱ	2前		2							1		
	インターンシップ	2前		2							1		
	プレゼンテーション技法	2後		2							1		
	コミュニケーションとソーシャルスキル	3前		2							1		
	ビジネス文書	3後		2							1		
小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	3		
教養教育科目合計(63科目)			-	10	100	0	4	2	0	0	0	48	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
司書科目	甲群	生涯学習概論	1後		2						1
		図書館概論	1前		2		1				
		図書館情報技術論	4前		2						1
		図書館制度・経営論	3前		2						1
		図書館サービス概論	3前		2			1			
		情報サービス論	3後		2			1			
		読書と豊かな人間性	3後		2	1					
		情報サービス演習	4前		2			1			
		図書館情報資源概論	1後		2						1
		情報資源組織論	2前		2						1
		情報資源組織演習	2後		2						1
		図書館サービス特論	4後		1			1			
		図書・図書館史	4後		1						1
司書科目 合計(13科目)		—	0	0	24	1	1	0	0	0	5
司書科目教諭	学校経営と学校図書館	2前			2		1				1
	学校図書館メディアの構成	1後			2		1				
	学習指導と学校図書館	2後			2		1				
	読書と豊かな人間性	3後			2	1					
情報メディアの活用	3前			2		1					
司書教諭科目 合計(5科目)		—	0	0	10	1	2	0	0	0	1
総合計(161科目)		—	57	214	34	10	6	0	0	0	57

卒業要件及び履修方法

【教養教育科目】

- ① 人間学科目群から4単位以上
- ② 現代教養科目群のA～Cからそれぞれ4単位以上、スキル教育科目群の国際教育系科目から4単位以上の16単位に加えて現代教養科目群(A～C)及び国際教育系Ⅰの中から、4単位以上、合計20単位以上
- ③ スキル教育科目群の情報教育系と生涯教育系からそれぞれ2単位以上
- ④ ①～③の28単位に加えて、人間学科目群、国際教育系Ⅱ、情報教育系、生涯教育系の中から、4単位以上、合計32単位以上

【専門教育科目】

教養教育科目から32単位以上に加えて、基礎科目から必修科目15単位、展開科目・探究科目から必修科目32単位及び選択必修科目18単位を修得し、合計128単位以上修得すること。

なお、教員免許状を取得する場合は、上記の基礎科目の必修科目及び運動学演習Ⅰ、健康とスポーツに加えて、以下のとおり単位を修得すること。

《国語教育コース》

<中学校教諭一種免許状(国語)>

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本語学基礎演習、日本語の歴史、日本語の音声、日本文学概論、日本文学基礎演習、日本文学の歴史、表象文化と日本文学、漢文学概論、書写書道演習、教材の研究と開発(中等国語)、中等国語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等国語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、日本語の文字と語彙、日本語のしくみ、日本語文章論のうち2単位、日本文化実地演習、こどもと文学のうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(国語)>

上記の中学校教諭一種免許状(国語)取得に必要な科目の単位のうち、道徳教育の理論と方法(中)、書写書道演習及び中等国語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(英語)>

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語学基礎演習、英語学演習、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、中等英語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

《英語教育コース》

<中学校教諭一種免許状(英語)>

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、英語学概論、英語学基礎演習、英語の音声、英語ディスコース研究、英語学研究、英語学概論、英語学演習、英語学研究、英語文学史、Basic English CommunicationⅠ、異文化理解、教材の研究と開発(中等英語)、中等英語科教育法Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、中等英語科教育法演習、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得した上で、Reading StrategiesⅠ、同Ⅱ、Writing StrategiesⅠ、同Ⅱのうち2単位以上、Basic English CommunicationⅡ、International Communication StrategiesⅠ、同Ⅱ、English for Education、Academic Englishのうち2単位を修得すること。

<高等学校教諭一種免許状(英語)>

上記中学校教諭一種免許状(英語)取得に必要な科目のうち、道徳教育の理論と方法(中)及び中等英語科教育法演習を除く科目の全ての単位を修得すること。

<中学校教諭二種免許状(国語)>

教育課程論(中・高)、道徳教育の理論と方法(中)、特別活動指導法(中・高)、生徒指導論(中・高)、学校教育相談(中・高)、総合的な学習の時間の指導法(中・高)、進路指導とキャリア教育(中・高)、日本語学概論、日本文学概論、日本文学の歴史、漢文学概論、書写書道演習、中等国語科教育法Ⅰ、教育実習Ⅳ、同Ⅴ、同Ⅵ、教職実践演習(中・高)の全ての単位を修得し、さらに、学校間連携教育、インクルーシブ教育・保育、学校教育心理学のうち2単位以上を修得すること。

【司書】

司書の資格を取得する場合は、卒業の資格を有し、司書科目のすべての開設科目(24単位)を修得すること。

【司書教諭】

司書教諭の資格は、次の①及び②を満たした場合、文部科学省より修了証を交付されて取得できる。

① 小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状取得の資格を有し、司書教諭科目のすべての開設科目(10単位)を修得すること。ただし、「学校図書館メディアの構成」は、司書科目「図書館情報資源概論」及び「情報資源組織論」を履修してもよい。

② 在学中に修得した上記の単位の認定を、学校図書館司書教諭講習を開催する大学に申請すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更
 - ・「教育・保育のカリキュラムマネジメント」を「教育課程論」に変更
 - ・「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の時間の指導法（中・高）」に変更
 - ・「教師・保育者論」を「教師論（中・高）」に変更
 - ・「日本語学演習」を「日本語学基礎演習」に変更
 - ・「日本文学演習」を「日本文学基礎演習」に変更
- ・教職課程認定における指摘により授業科目名を変更（元の科目名に（中・高）または（中）を追記）
 - ・教育の思想と歴史（中・高）
 - ・発達と学習（中・高）
 - ・教育方法学（中・高）
 - ・教育の制度と経営（中・高）
 - ・特別支援教育（中・高）
 - ・教育課程論（中・高）
 - ・道徳教育の理論と方法（中）
 - ・特別活動指導法（中・高）
 - ・生徒指導論（中・高）
 - ・学校教育相談（中・高）
 - ・進路指導とキャリア教育（中・高）
- ・教職課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・教育方法学（中・高）（教授1、准教授1から兼任1に変更）
 - ・特別活動指導法（中・高）（教授1、講師1から兼任1に変更）
 - ・学校教育相談（中・高）（准教授1から兼任1に変更）
- ・課程認定における指摘により教員配置を変更
 - ・English for Education（兼任1から教授1に変更）
- ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更
 - （准教授1から教授1に変更）
 - ・日本語学概論
 - ・日本語のしくみ
 - ・日本語文章論
 - （教授1・准教授1から教授2に変更）
 - ・教育実習Ⅴ
 - ・教育実習Ⅵ
 - （教授4・准教授3から教授5・准教授2に変更）
 - ・教育学研究Ⅰ
 - ・教育学研究Ⅱ
 - ・教育学研究Ⅲ
 - ・教育学研究Ⅳ
 - ・卒業研究
- ・教職課程認定における指摘により担当教員（教授1）を追加したこと及び担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更（教授1・准教授2から教授3・准教授1に変更）
 - ・中等国語科教育法Ⅰ
 - ・中等国語科教育法Ⅱ
- ・教職課程認定における指摘により科目区分を変更
 - ・日本語学概論（基礎科目から展開科目へ移行）
 - ・英語基礎演習（基礎科目から展開科目へ移行）
- ・教職課程認定における指摘により授業科目（展開科目）の新規追加
 - ・日本語の歴史
 - ・日本語文化実地演習
- ・入学者数の増加に伴いクラスを分割することとしたため、教員配置を変更
 - （兼任2から兼任7に変更）
 - ・英語コミュニケーションⅠ
 - ・英語コミュニケーションⅡ
 - （兼任1から兼任6に変更）
 - ・障害者コミュニケーション技術

【令和2年度】

- ・指導体制の充実を図るため、「生徒の理解」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「野外活動」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「学校教育の体験活動（中・高）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授3」に変更
- ・専任教員の時間割の都合により、「日本国憲法」の専任教員等の配置を「教授1」から「なし」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅠ」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「大学での学びⅡ」の兼任・兼任「1」を追加
- ・兼任教員1名で担当することとしたため、「アジアと日本」の兼任・兼任を「2」から「1」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「地域と社会」の兼任・兼任を「1」から「2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅢ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「英語コミュニケーションⅣ」の兼任・兼任を「2」から「6」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅰ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「情報処理演習Ⅱ」の兼任・兼任を「2」から「3」に変更
- ・兼任教員辞任により、「運動学演習Ⅰ」の兼任・兼任を「1（兼任）」から「2（兼任）」に変更
- ・授業内容の見直しのため、「障害者コミュニケーション技術」の兼任・兼任を「1」から「4」に変更

【令和3年度】

- ・授業実施方法の見直しにより、「教材の研究と開発（中等国語）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更
- ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更
 - 「英語学概論」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - 「英語基礎演習」を「教授1」「准教授1」から「教授2」に変更
 - 「英語の音声」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - 「英語学研究」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - 「教育学研究Ⅰ」「教育学研究Ⅱ」「教育学研究Ⅲ」「教育学研究Ⅳ」を「教授5」「准教授2」から「教授6」「准教授1」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「中等英語科教育法Ⅰ」「中等英語科教育法Ⅱ」「中等英語科教育法Ⅲ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更
- ・指導体制の充実を図るため、「教育実習Ⅳ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」「准教授1」に変更
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、「くらしと社会福祉」の兼任教員の配置を「兼任1」から「兼任2」に変更
- ・担当教員の退職に伴い前期と後期で担当を分担することとしたため、「食の科学」の兼任教員の配置を「兼任1」から「兼任1」に変更
- ・クラス編成の見直しのため、「英語コミュニケーションⅠ」及び「英語コミュニケーションⅡ」の兼任教員の配置を「兼任8」から「兼任7」に変更
- ・クラス編成の見直しのため、「英語コミュニケーションⅢ」及び「英語コミュニケーションⅣ」の兼任教員の配置を「兼任6」から「兼任5」に変更
- ・編成上の都合により、「運動学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任2」から「兼任3」に変更
- ・編成上の都合により、「図書館情報技術論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更
- ・担当教員辞任のため、「図書館サービス概論」の専任教員等の配置を「兼任1」から「准教授1」に変更

【令和4年度】

- ・教育職員免許法施行規則の一部改正により、「教育方法学（中・高）」を「教育方法学（中・高）（情報通信技術の活用含む）」に変更
- ・昇任人事により、専任教員等の配置を変更
 - ・「教育の思想と歴史（中・高）」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - ・「教師論（中・高）」を「准教授1」、「教授1」から「教授2」に変更
 - ・「教育の制度と経営（中・高）」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - ・「道徳教育の理論と方法（中・高）」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - ・「教育学入門」を「准教授1」から「教授1」に変更
 - ・「メディアと社会」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館サービス特論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報サービス演習」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報サービス論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館サービス概論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「図書館概論」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「学校経営と学校図書館」（准教授1、兼任1から教授1、兼任1に変更）
 - ・「学校図書館メディアの構成」（准教授1から教授1に変更）
 - ・「情報メディアの活用」（准教授1から教授1に変更）
- ・クラス数増の必要が生じたため、「英語コミュニケーションⅠ」の専任教員等の配置を「兼任7」から「兼任8」に変更
- ・クラス数増の必要が生じたため、「英語コミュニケーションⅡ」の専任教員等の配置を「兼任7」から「兼任8」に変更
- ・講師辞任により、「運動学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「情報処理演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「情報処理演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「兼任3」から「兼任2」に変更
- ・時間割の都合により、「くらしと自然」の専任教員等の配置を「准教授1」から「兼任1」に変更

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
23 科目	116 科目	18 科目	157 科目	29 科目 [6]	114 科目 [Δ2]	18 科目 [—]	161 科目 [4]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	日本語文化実地演習	2	2	専門	選択	文献に基づき古典文学作品の実地踏査を行う学修を京都を中心とした関西地方
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

2021年度後期開講「日本語文化実地演習」について、年度当初より、実施について学科で慎重に検討・協議を行っていたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況及び履修者の健康・安全を考慮し、実施を見送ることが妥当であると判断した。

履修者には学内の電子掲示板であるユニバーサルパスポートによりその旨を通知し、引き続き履修を希望する場合は次年度本科目を履修するよう指導。ただし、次年度も本科目が不開講となる可能性があるため、次年度前期の段階で、他の教科（国語）に関する選択必修科目（「子どもと文学」）も履修するよう指導している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{157} = \boxed{0.63}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の建て替えにより 校舎敷地が減少した			
	校 舎 敷 地	26,15826.362㎡	㎡	㎡	26,15826.362㎡				
	運 動 場 用 地	15,912㎡	㎡	㎡	15,912㎡				
	小 計	42,07042.274㎡	㎡	㎡	42,07042.274㎡				
	そ の 他	27,411㎡	㎡	㎡	27,411㎡				
	合 計	69,48169.685㎡	㎡	㎡	69,48169.685㎡				
(2) 校 舎	専 用	25,498㎡	㎡	㎡	25,498㎡				
	(25,498㎡)	(㎡)	(㎡)	(25,498㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	3室	19室	5室	1室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学部 教育学科			23 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点		
		教育学部	95,965 [18,972] 96,114 [18,973]	828 [300] (526 [8])	293 [292] (305 [304])	1560 (1557)	246 (208)		15 (6)
	計	95,965 [18,972] 96,114 [18,973]	828 [300] (526 [8])	293 [292] (305 [304])	1560 (1557)	246 (208)	15 (6)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	3,000㎡		290席		300,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要						
	3,103㎡		テニスコート: 2,769㎡		フール: 827㎡				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	入学金の金額を改訂したため、1年次納付金の金額を修正(2)
		教員1人当り研究費等	250千円	250千円	図書購入費	1235千円	1235千円	1235千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	1900千円	4000千円	800千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1290+250千円	1020千円	1020千円	1020千円	0千円	0千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	広島文教大学					学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
教育学部	4	150	0	600	学士(教育学)	1.11	1.15	なし	令和元	広島県広島市安佐北区可部東一丁目2-1	
教育学科	4	150	0	600	学士(教育学)	1.11	1.15	なし	令和元	同上	
初等教育専攻	4	120	0	480	学士(教育学)	1.13	1.12	なし	令和元	同上	
中等教育専攻	4	30	0	120	学士(教育学)	1.04	1.26	なし	令和元	同上	
人間科学部	4	240	3年次35	1,030	-	1.05	0.99	-	昭和41	同上	
初等教育学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	-	-	昭和56	同上	令和元年学生募集停止
人間福祉学科	4	60	3年次20	280	学士(文学)	1.07	0.91	-	平成12	同上	入学定員変更(△20)
心理学科	4	50	3年次10	220	学士(文学)	1.60	1.86	-	平成14	同上	入学定員変更(△20)
人間栄養学科	4	70	0	280	学士(栄養学)	0.79	0.80	-	平成14	同上	
グローバルコミュニケーション学科	4	60	3年次5	250	学士(文学)	0.86	0.56	-	平成22	同上	入学定員変更(△10)
大学全体	4	390	35	1,630	-	1.07	1.05	-	-	同上	

大学の名称	広島文教大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人間科学研究科	2	15	-	30	-	0.21	0.53	-	昭和62	広島県広島市安佐北区可部東1-2-1	
教育専攻(修士課程)	2	15	-	30	修士(文学)	0.21	0.53	-	昭和62	同上	
大学院全体	2	30	-	30	-	0.21	0.53	-	昭和62	同上	

大学の名称	〇〇短期大学					学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍	倍			
該当なし										

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名				
専	准教授	新見直子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 進路指導とキャリア教育 生徒指導論 ※ 学校教育心理学	専	准教授	新見直子 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学	専	准教授	新見直子 (41) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学	専	准教授	新見直子 (42) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学	専	准教授	新見直子 (43) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※ 進路指導とキャリア教育(中・高) 生徒指導論(中・高) ※ 学校教育心理学
専	准教授	牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習 ※ 学校教育相談	専	准教授	牧 亮太 (37) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※	専	准教授	牧 亮太 (38) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※	専	准教授	牧 亮太 (39) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※	専	准教授	牧 亮太 (40) <平成31年4月> 博士(心理学)	発達と学習(中・高) ※
専	講師	大野内 愛 (34) <平成31年4月> 修士(教育学) ※	特別活動指導法 ※																
兼任	教授	豊後 宏記 (60) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学び I アジアと日本 中国の言葉と文化 I 中国の言葉と文化 II 中国の言葉と文化 III 中国の言葉と文化 IV 生涯学習概論 プレゼンテーション技法	兼任	教授	豊後 宏記 (61) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学び I アジアと日本 中国の言葉と文化 I 中国の言葉と文化 II 中国の言葉と文化 III 中国の言葉と文化 IV プレゼンテーション技法	兼任	教授	豊後 宏記 (61) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学び I 中国の言葉と文化 I 中国の言葉と文化 II 中国の言葉と文化 III 中国の言葉と文化 IV 読書者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法	兼任	教授	豊後 宏記 (62) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学び I 中国の言葉と文化 I 中国の言葉と文化 II 中国の言葉と文化 III 中国の言葉と文化 IV 読書者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法	兼任	教授	豊後 宏記 (63) <平成31年4月> 文学修士	漢文学演習 ※ 大学での学び I 中国の言葉と文化 I 中国の言葉と文化 II 中国の言葉と文化 III 中国の言葉と文化 IV 読書者コミュニケーション技術 ※ プレゼンテーション技法
兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史	兼任	教授	宮崎 洋一 (55) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 アジアと日本 図書館情報資源概論 図書・図書館史	兼任	教授	宮崎 洋一 (57) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 大学での学び II アジアと日本 読書者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史	兼任	教授	宮崎 洋一 (57) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 大学での学び II アジアと日本 読書者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史	兼任	教授	宮崎 洋一 (58) <平成31年4月> 博士(史学)	漢文学概論 漢文学演習 ※ 文教学入門 人生論 大学での学び II アジアと日本 読書者コミュニケーション技術 ※ 図書館情報資源概論 図書・図書館史
兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士 ※	文学を読む意味	兼任	教授	森下 要治 (52) <平成31年4月> 文学修士 ※	文学を読む意味	兼任	教授	森下 要治 (53) <平成31年4月> 文学修士 ※	文学を読む意味	兼任	教授	森下 要治 (54) <平成31年4月> 文学修士 ※	文学を読む意味	兼任	教授	森下 要治 (55) <平成31年4月> 文学修士 ※	文学を読む意味
兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習 I 運動学演習 II 運動学演習 III 運動学演習 IV 健康とスポーツ	兼任	教授	石井 宏佳 (61) <平成31年4月> 体育学学士	運動学演習 I 運動学演習 II 運動学演習 III 運動学演習 IV 健康とスポーツ												
兼任	教授	植田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※	子どもと社会	兼任	教授	植田 智 (56) <平成31年4月> 文学修士 ※	子どもと社会	兼任	教授	植田 智 (57) <平成31年4月> 文学修士 ※	子どもと社会	兼任	教授	植田 智 (58) <平成31年4月> 文学修士 ※	子どもと社会	兼任	教授	植田 智 (59) <平成31年4月> 文学修士 ※	子どもと社会 人生論
兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康	兼任	教授	小田 典子 (60) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康	兼任	教授	小田 典子 (61) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康	兼任	教授	小田 典子 (62) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康	兼任	教授	小田 典子 (63) <平成31年4月> 医学博士	からだと健康
兼任	教授	河村 大造 (62) <平成31年4月> 博士(工学)	食の科学																
兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学	兼任	教授	黒川 知則 (68) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学	兼任	教授	黒川 知則 (69) <平成31年4月> 薬学博士	社会と生命科学								
兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士 ※	くらしの中の心理学	兼任	教授	田頭 穂積 (67) <平成31年4月> 文学修士 ※	くらしの中の心理学	兼任	教授	田頭 穂積 (68) <平成31年4月> 文学修士 ※	くらしの中の心理学	兼任	教授	田頭 穂積 (69) <平成31年4月> 文学修士 ※	くらしの中の心理学	兼任	教授	田頭 穂積 (70) <平成31年4月> 文学修士 ※	くらしの中の心理学
兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解 I 異文化への理解 II からだと健康	兼任	教授	藤井 律子 (54) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解 I 異文化への理解 II からだと健康	兼任	教授	藤井 律子 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解 I 異文化への理解 II からだと健康	兼任	教授	藤井 律子 (56) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解 I 異文化への理解 II からだと健康	兼任	教授	藤井 律子 (57) <平成31年4月> 博士(医学)	異文化への理解 I 異文化への理解 II からだと健康
兼任	教授	松原 洋一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済	兼任	教授	松原 洋一 (61) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済	兼任	教授	松原 洋一 (62) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済	兼任	教授	松原 洋一 (63) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済	兼任	教授	松原 洋一 (64) <平成31年4月> 法学士	くらしと経済
				兼任	教授	曾 井 直也 (63) <令和2年4月> 教育学修士	地域と社会	兼任	教授	曾 井 直也 (63) <令和2年4月> 教育学修士	くらしと社会福祉 地域と社会	兼任	教授	曾 井 直也 (63) <令和2年4月> 教育学修士	くらしと社会福祉 地域と社会	兼任	教授	曾 井 直也 (63) <令和2年4月> 教育学修士	くらしと社会福祉 地域と社会

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名				
兼任	講師	小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書	兼任	講師	小原 寿美 (51) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書	兼任	講師	小原 寿美 (52) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ コミュニケーションとソーシャル スキル ビジネス文書	兼任	講師	小原 寿美 (53) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ビジネス文書	兼任	講師	小原 寿美 (54) <平成31年4月> 修士(文学)	社会とジェンダー キャリア形成概論Ⅰ キャリア形成概論Ⅱ インターンシップ ビジネス文書
兼任	講師	和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ	兼任	講師	和上 順子 (47) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ	兼任	講師	和上 順子 (48) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ	兼任	講師	和上 順子 (49) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ	兼任	講師	和上 順子 (50) <平成31年4月> 修士(文学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 情報処理演習Ⅲ 情報処理演習Ⅳ
兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (31) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (37) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (38) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (39) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Renaud Jonathan Davies (40) <平成31年4月> Master of Education in Teaching English as a Second Language and Curriculum Studies (カナダ)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
				兼任	講師	黒 飛 知 香 (38) <平成31年4月> 博士(農学)	食の科学												
				兼任	講師	Julia Daisy Amelia (28) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米園)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Julia Daisy Amelia (29) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米園)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Julia Daisy Amelia (30) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米園)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Julia Daisy Amelia (31) <平成31年4月> Master of Applied Linguistics (米園)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
				兼任	講師	Tyler Montgomery (38) <平成31年4月> 修士(国際学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Tyler Montgomery (39) <平成31年4月> 修士(国際学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ								
				兼任	講師	Cristina Tong Malimban (47) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Cristina Tong Malimban (48) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Cristina Tong Malimban (49) <平成31年4月> Master of Arts in Applied Linguistics (オーストラリア)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ				
				兼任	講師	小川 雅 史 (59) <平成31年4月> 教育学士	教育方法学(中・高)	兼任	講師	小川 雅 史 (60) <平成31年4月> 教育学士	教育方法学(中・高)	兼任	講師	小川 雅 史 (61) <平成31年4月> 教育学士	教育方法学(中・高)	兼任	講師	小川 雅 史 (62) <平成31年4月> 教育学士	教育方法学(中・高)(情報通信技術の活用を含む)
				兼任	講師	藤 田 裕 二 (41) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	くらしと社会福祉	兼任	講師	藤 田 裕 二 (42) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	くらしと社会福祉	兼任	講師	藤 田 裕 二 (43) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	くらしと社会福祉	兼任	講師	藤 田 裕 二 (44) <令和2年4月> 博士(生命システム科学)	くらしと社会福祉
				兼任	講師	Craig Anthony Novitt (51) <令和2年4月> MBA	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Craig Anthony Novitt (51) <令和2年4月> MBA	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Craig Anthony Novitt (53) <令和2年4月> MBA	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Craig Anthony Novitt (53) <令和2年4月> MBA	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
				兼任	講師	Lyndon Lehde (43) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米園)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Lyndon Lehde (44) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米園)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Lyndon Lehde (45) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米園)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Lyndon Lehde (46) <令和2年4月> Master of Education (Teaching English to Speakers of Other Languages) (米園)	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
				兼任	講師	阿 部 夏 希 (37) <令和3年4月> 博士(心理学)	コミュニケーションとソーシャル スキル	兼任	講師	阿 部 夏 希 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	コミュニケーションとソーシャル スキル	兼任	講師	阿 部 夏 希 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	コミュニケーションとソーシャル スキル	兼任	講師	阿 部 夏 希 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	コミュニケーションとソーシャル スキル
				兼任	講師	Staohus Peter Tu (29) <令和3年4月> 博士(文学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	兼任	講師	Staohus Peter Tu (30) <令和3年4月> 博士(文学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Staohus Peter Tu (30) <令和3年4月> 博士(文学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	Staohus Peter Tu (30) <令和3年4月> 博士(文学)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ
				兼任	講師	藤 岡 華 代 (39) <令和3年4月> 学士(家政学)	食生活と健康※	兼任	講師	藤 岡 華 代 (39) <令和3年4月> 学士(家政学)	食生活と健康※	兼任	講師	藤 岡 華 代 (39) <令和3年4月> 学士(家政学)	食生活と健康※	兼任	講師	藤 岡 華 代 (39) <令和3年4月> 学士(家政学)	食生活と健康※
兼任	助教	戸 松 美 紀 子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※	兼任	助教	戸 松 美 紀 子 (35) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※	兼任	助教	戸 松 美 紀 子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※	兼任	助教	戸 松 美 紀 子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※	兼任	助教	戸 松 美 紀 子 (36) <平成31年4月> 修士(人間文化学)	食生活と健康 ※
												兼任	助教	五百竹 亮 丞 (29) <令和3年4月> 修士(マネジメント)	地域と社会	兼任	助教	五百竹 亮 丞 (30) <令和3年4月> 修士(マネジメント)	地域と社会

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等									
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
兼任	講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	高橋 泰道 (60) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	高橋 泰道 (61) <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	講師	山口 大貴 (27) <令和3年4月> 博士(健康科学)
		総合的な学習と アクティブラーニング			総合的な学習の指導法(中・高)			総合的な学習の指導法(中・高)			食の科学
兼任	講師	若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	若松 昭彦 (62) <令和4年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	若松 昭彦 (63) <令和4年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	French Matthew Douglas (47) <令和4年4月> Master of Arts in Teaching English to Speakers of Other Languages(英題)
		インクルーシブ教育・保育			インクルーシブ教育・保育			インクルーシブ教育・保育			英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ Giadya Barbara Javier (45) <令和4年4月> Masters in Language and Literary Education (Complating)(フイリピン)
兼任	講師	宮木 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	宮木 秀雄 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	宮木 秀雄 (38) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	高橋 泰道 (62) <令和3年4月> 修士(教育学)
		特別支援教育			特別支援教育(中・高)			特別支援教育(中・高)			総合的な学習の指導法(中・高)
兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	衛藤 吉則 (47) <令和2年4月> 博士(教育学)	兼任	講師	若松 昭彦 (65) <令和4年4月> 博士(教育学)
		現代思想と哲学			現代思想と哲学			現代思想と哲学			インクルーシブ教育・保育
兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒業	兼任	講師	河野 美紗 (37) <平成31年4月> 専門学校卒業	兼任	講師	河野 美紗 (38) <平成31年4月> 専門学校卒業	兼任	講師	宮木 秀雄 (40) <令和2年4月> 博士(教育学)
		情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ			特別支援教育(中・高)
兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	兼任	講師	戸板 律子 (56) <令和2年4月> 学術修士	兼任	講師	戸板 律子 (57) <令和2年4月> 学術修士	兼任	講師	河野 美紗 (40) <平成31年4月> 専門学校卒業
		フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ			フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ			フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ			情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	沼田 有史 (64) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	沼田 有史 (65) <令和2年4月> 修士(学術)	兼任	講師	戸板 律子 (59) <令和2年4月> 学術修士
		日本とヒロシマの歴史			日本とヒロシマの歴史			日本とヒロシマの歴史			フランス語の言葉と文化Ⅰ フランス語の言葉と文化Ⅱ フランス語の言葉と文化Ⅲ フランス語の言葉と文化Ⅳ
兼任	講師	野村 卓史 (40) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	野村 卓史 (41) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	野村 卓史 (42) <令和2年4月> 博士(文学)	兼任	講師	沼田 有史 (67) <令和2年4月> 修士(学術)
		現代思想と哲学			現代思想と哲学			現代思想と哲学			日本とヒロシマの歴史
兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	桃井 しづ (65) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	桃井 しづ (66) <平成31年4月> 文学士	兼任	講師	野村 卓史 (43) <令和2年4月> 博士(文学)
		障害者コミュニケーション技術			障害者コミュニケーション 技術 ※			障害者コミュニケーション 技術 ※			現代思想と哲学
兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	山川 秀道 (35) <令和2年4月> 修士(法学)	兼任	講師	桃井 しづ (68) <平成31年4月> 文学士
		くらしと法律			くらしと法律			くらしと法律			障害者コミュニケーション 技術 ※
兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	山口 聡 (70) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	山川 秀道
		人権問題の歩みとその展望			人権問題の歩みとその展望			人権問題の歩みとその展望			くらしと法律
兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	森川 信夫 (65) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	森川 信夫 (66) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	山口 聡
		図書館制度・経営論			図書館制度・経営論			図書館制度・経営論			人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	藤澤 登美子 (76) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	藤澤 登美子 (77) <令和3年4月> 文学士	兼任	講師	森川 信夫 (68) <令和3年4月> 文学士
		図書館サービス概論			図書館サービス概論			図書館サービス概論			図書館制度・経営論
兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	兼任	講師	土肥 善嗣 (77) <令和2年4月> 学士(法学)	兼任	講師	土肥 善嗣 (78) <令和2年4月> 学士(法学)	兼任	講師	藤澤 登美子
		情報資源組織論 情報資源組織演習			情報資源組織論 情報資源組織演習			情報資源組織論 情報資源組織演習			図書館サービス概論
兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	堂免 寛 (69) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	堂免 寛 (70) <令和2年4月> 教育学士	兼任	講師	土肥 善嗣 (80) <令和2年4月> 学士(法学)
		学校経営と学校図書館			学校経営と学校図書館			学校経営と学校図書館			情報資源組織論 情報資源組織演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山田 浩之 (56) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山田 洋平 (38) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國貞 智子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論
兼任	講師	上土居 理絵 (35) <平成31年4月> 学士(臨床心理学)	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	大西 章雄 (72) <平成31年4月> 文学士	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	川本 忠夫 (69) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	譽田 明子 (67) <平成31年4月> ろう学校高等部卒	障害者コミュニケーション技術 ※
兼任	講師	山本 和幸 (60) <平成31年4月> 準学士	障害者コミュニケーション技術 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山田 浩之 (57) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山田 洋平 (39) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國貞 智子 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山田 浩之 (58) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山田 洋平 (40) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國貞 智子 (36) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	山田 浩之 (59) <令和2年4月> 博士(教育学)	特別活動指導法(中・高)
兼任	講師	山田 洋平 (41) <令和3年4月> 博士(心理学)	学校教育相談(中・高)
兼任	講師	國貞 智子 (37) <平成31年4月> 修士(教育学)	生涯学習概論

兼任	講師	浦川 暹二郎 (28) <令和2年4月> 修士(法学)	日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師	中本 慶彦 (31) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 幸雄 (70) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (52) <令和2年4月> 修士(文化史学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ
兼任	講師	尾崎 雄祐 (26) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (37) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (59) <令和2年4月>	障害者コミュニケーション技術 ※

兼任	講師	浦川 暹二郎 (29) <令和2年4月> 修士(法学)	日本国憲法 くらしと法律
兼任	講師	中本 慶彦 (32) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 幸雄 (71) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (53) <令和2年4月> 修士(文化史学)	情報処理演習Ⅰ 情報処理演習Ⅱ 図書館情報技術論
兼任	講師	尾崎 雄祐 (27) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (38) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (60) <令和2年4月>	障害者コミュニケーション技術 ※

兼任	講師	中本 慶彦 (33) <令和2年4月> 修士(文学)	現代思想と哲学
兼任	講師	河辺 幸雄 (72) <令和2年4月> 修士(法学)	人権問題の歩みとその展望
兼任	講師	川和田 晶子 (54) <令和2年4月> 修士(文化史学)	図書館情報技術論
兼任	講師	尾崎 雄祐 (28) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅱ 健康とスポーツ
兼任	講師	村上 紀斗美 (39) <令和2年4月> 修士(教育学)	運動学演習Ⅰ 運動学演習Ⅲ 運動学演習Ⅳ
兼任	講師	清水 和行 (61) <令和2年4月>	障害者コミュニケーション技術 ※

兼任	講師	岩田 昌太郎 (43) <令和3年4月> 博士(教育学)	運動学演習Ⅰ
兼任	講師	黒飛 知香 (40) <令和3年4月> 博士(農学)	食の科学
兼任	講師	橋本 直子 (56) <令和3年4月> 教育学士	運動学演習Ⅰ

兼任	講師	岩田 昌太郎 (44) <令和3年4月> 博士(教育学)	運動学演習Ⅰ
----	----	---------------------------------------	--------

専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	栗田 佳祐 (27) <令和3年4月> 修士(法学)
		日本国憲法
兼任	講師	山野 幸子 (40) <令和3年4月> 博士(法学)
		くらしと自然
兼任	講師	神代 貫志 (32) <令和3年4月> 修士(法学)
		くらしと法律

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）担当科目「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、岡教授（専任）担当科目「中等国語科教育法Ⅰ※」「中等国語科教育法Ⅱ※」を追加
- ・教職課程認定における指摘により石原教授（専任）担当科目「English for Education」を追加
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、今崎教授（専任）担当科目「特別活動指導法※」を「特別活動指導法（中・高）※」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、杉山教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に、「教育・保育のかたちとマネジメント※」を「教育課程論（中・高）※」に変更
- ・黒木晶子准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、庄（小川）准教授（専任）担当科目「教育方法学※」を「教育方法学（中・高）※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、白石准教授（専任）担当科目「教育の思想と歴史」を「教育の思想と歴史（中・高）」に、「教師・保育者論※」を「教師論（中・高）※」に、「教育の制度と経営」を「教育の制度と経営（中・高）」に「道德教育の理論と方法」を「道德教育の理論と方法（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、新見准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「進路指導とキャリア教育」を「進路指導とキャリア教育（中・高）」に、「生徒指導論※」を「生徒指導論（中・高）※」に変更
- ・牧准教授（専任）担当科目「発達と学習※」を「発達と学習（中・高）※」に、「学校教育相談」を「学校教育相談（中・高）」に変更
- ・教職課程認定における指摘により大野内講師（専任）担当科目「特別活動指導法※」を削除
- ・河村大造教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・尾崎英司准教授（兼任）の昇任により職名を教授に変更
- ・専任教員が辞退したため、黒飛知香講師（兼任）担当授業科目「食の科学」を挿入
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Arthur Rutson-Griffiths講師（兼任）担当科目「Basic English Communication I」「Basic English Communication II」を追加
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Richard Terry Sugg講師（兼任）担当科目「Basic English Communication I」「Basic English Communication II」・「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりGary Cook Graham講師（兼任）担当科目「Basic English Communication I」「Basic English Communication II」「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」を削除し、「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・教職課程認定における指摘により、初等教育と中等教育を区別するため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）担当科目「Basic English Communication I」を「英語コミュニケーションⅠ」に、「Basic English Communication II」を「英語コミュニケーションⅡ」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Kelly Eileen Rose講師（兼任）担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・教職課程認定における指摘によりKelly Eileen Rose講師（兼任）担当科目「English for Education」を削除
- ・Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の年齢訂正
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Tyler Montgomery講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、Cristina Tong Mallimban講師（兼任）の挿入 担当科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、小川雅史講師（兼任）挿入 担当科目「教育方法学（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、高橋泰道講師（兼任）担当科目「総合的な学習とアクティブラーニング」を「総合的な学習の指導法（中・高）」変更
- ・教職課程認定における指摘により初等教育と中等教育の科目を区別するため、宮本秀雄講師（兼任）担当科目「特別支援教育」を「特別支援教育（中・高）」に変更
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたこと及び授業方法の見直しにより、桃井しづ（兼任）講師担当科目「障害者コミュニケーション技術※」を「障害者コミュニケーション技術※」に変更
- ・教職課程認定における指摘により専任教員担当予定であった科目「特別活動指導法（中・高）」を山田浩之（兼任）講師に変更
- ・教職課程認定における指摘により山田洋平（兼任）講師の挿入 担当科目「学校教育相談（中・高）」
- ・教職課程認定における指摘により園貞智子（兼任）講師の挿入 担当科目「生涯学習概論」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、上土居理絵（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、大西章雄（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、川本忠夫（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、春田明子（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」
- ・新入生の増加によりクラス分けの必要が生じたため、山本和奈（兼任）講師の挿入 担当科目「障害者コミュニケーション技術※」

【令和2年度】

- ・時間割の都合により、村上典章教授（専任）の担当授業科目から「日本国憲法※」を削除
- ・指導体制の充実を図るため、森哲之教授（専任）の担当授業科目に「生徒の理解」「野外活動」「学校教育の体験活動（中・高）」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、黒木晶子教授（専任）の担当授業科目に「生徒の理解」「学校教育の体験活動（中・高）」を追加
- ・時間割の都合により、豊後宏記教授（兼任）担当授業科目から「アジアと日本」を削除
- ・授業内容の見直しのため、宮崎洋一教授（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅠ」及び「障害者コミュニケーション技術※」を追加
- ・石井宏佳教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、菅井直也教授（兼任）に「地域と社会」を挿入
- ・清水克之准教授（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・担当教員の変更のため、Richard Terry Sugg講師（兼任）の担当授業科目から「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・指導体制の充実を図るため、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目に「大学での学びⅠ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Renaud Jonathan Davies講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Julia Daley Amalia講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Tyler Montgomery講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を追加
- ・兼任教員辞任により、棚田裕二講師（兼任）、担当授業科目「くらしと社会福祉」を挿入
- ・指導体制の充実を図るため、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）、担当授業科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・担当教員の変更及び指導体制の充実を図るため、Lyndon Lehde講師（兼任）、担当授業科目「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入
- ・衛藤吉則講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山川秀道講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山口聡講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・上土居理絵講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・大西章雄講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・川本忠夫講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・春田明子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・山本和奈講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・兼任教員辞任により、浦川源二郎講師（兼任）、担当授業科目「日本国憲法」「くらしと法律」を挿入
- ・兼任教員辞任により、中本慶彦講師（兼任）、担当授業科目「現代思想と哲学」を挿入
- ・兼任教員辞任により、河辺幸雄講師（兼任）担当授業科目「人権問題の歩みとその展望」を挿入
- ・クラス数を増やす必要が生じたため、川和田晶子講師（兼任）、担当授業科目「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」を挿入
- ・兼任教員辞任により、村上妃斗美講師（兼任）、担当授業科目「運動学演習Ⅰ」「運動学演習Ⅲ」「運動学演習Ⅳ」を挿入
- ・授業内容の見直しのため、清水和行講師（兼任）、担当授業科目「障害者コミュニケーション技術※」を挿入
- ・6月中旬頃、指導体制充実のため、豊後宏記教授（兼任）の担当授業科目に「障害者コミュニケーション技術※」を追加
- ・後期開始前、兼任教員辞任により、尾崎雄祐講師（兼任）の担当授業科目に「運動学演習Ⅱ」「健康とスポーツ」を追加

【令和3年度】

- ・授業実施方法の見直しにより、岡利道教授（専任）の担当授業科目に「教育実習Ⅳ」を追加
- ・授業実施方法の見直しにより、石原義文教授（専任）の担当授業科目に「中等英語科教育法Ⅰ」「中等英語科教育法Ⅱ」「中等英語科教育法Ⅲ」「中等英語科教育法演習」「教育実習Ⅳ」を追加
- ・時間割の都合により、川西正行教授（専任）の担当授業科目から「運動学演習Ⅰ」を削除
- ・授業実施方法の見直しにより、橋村勝明教授（専任）「教材の研究と開発（中等国語）」の授業実施方法をオムニバスから単独に変更
- ・授業実施方法の見直しにより、森哲之教授（専任）の担当授業科目から「教材の研究と開発（中等国語）」を削除
- ・上理学准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・授業実施方法の見直しにより、猪川優子准教授（専任）の担当授業科目に「教育実習Ⅳ」を追加
- ・授業実施方法の見直しにより、黒木晶子教授（専任）の担当授業科目から「教育実習Ⅳ」を削除
- ・担当教員の辞任により、庄ゆかり准教授（専任）の担当授業科目に「図書館サービス概論」を追加。
- ・時間割の都合により、庄ゆかり准教授（専任）の担当授業科目から「図書館情報技術論」を削除
- ・退職により、黒川知則教授（兼任）を削除
- ・授業実施方法の見直しにより、菅井直也教授（兼任）の担当授業科目に「くらしと社会福祉」を追加
- ・担当教員の退職により、木下英司教授（兼任）担当授業科目に「社会と生命科学」を挿入
- ・退職により、溝渕淳准教授（兼任）を削除
- ・授業実施方法の見直しにより、Arthur Rutson-Griffiths講師（兼任）の担当授業科目から「イングリッシュワークショップⅢ」「イングリッシュワークショップⅣ」を削除
- ・授業実施方法の見直しにより、Jordan David Svien講師（兼任）担当授業科目に「イングリッシュワークショップⅢ」「イングリッシュワークショップⅣ」を追加
- ・新規雇用により、小原寿美講師（兼任）の担当授業科目から「コミュニケーションとソーシャルスキル」を削除
- ・退職により、Tyler Montgomery講師（兼任）を削除
- ・新規雇用により、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）を担当教員表から削除
- ・新規雇用により、阿部夏希講師（兼任）担当授業科目に「コミュニケーションとソーシャルスキル」を挿入
- ・新規雇用により、Stachus Peter Tu講師（兼任）担当授業科目に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・新規雇用により、藤岡華代講師（兼任）担当授業科目に「食生活と健康※」を挿入
- ・退職により、戸松美紀子助教（兼任）を削除
- ・新規雇用により、五百竹亮丞助教（兼任）担当授業科目に「地域と社会」を挿入
- ・新規雇用により、山口大貴助教（兼任）担当授業科目に「食の科学」を挿入
- ・辞任により、藤澤登美子講師（兼任）を削除
- ・時間割の都合のため、川和田晶子講師（兼任）の担当授業科目に「図書館情報技術論」を追加
- ・担当教員の変更により、尾崎雄祐講師（兼任）の担当授業科目から「運動学演習Ⅰ」を削除、また、保有学位を修士から博士に変更
- ・担当教員の変更により、岩田昌太郎講師（兼任）担当授業科目に「運動学演習Ⅰ」を挿入
- ・退職により、黒飛知香講師を兼任教員から兼任教員に変更し、担当授業科目「食の科学」を挿入
- ・担当を変更し、橋本直子講師（兼任）担当授業科目に「運動学演習Ⅰ」を挿入

【令和4年度】

- ・時間割の都合により前期と後期で担当を分担することとしたため、上理学教授（専任）に「言葉とコミュニケーション」を挿入
- ・時間割の都合により、三田幸司准教授（専任）の担当授業科目から「くらしと自然」を削除
- ・担当教員の昇進により専任教員等の配置を変更
 - ・庄（小川）ゆかり准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
 - ・白石崇人准教授（専任）の昇任により職名を教授に変更
- ・授業実施方針の変更により、植田智教授（兼任）の担当授業科目に「人生論」を挿入
- ・Gary Cook講師（兼任）辞任により、担当表から削除
- ・出向により、Lorna Layantes Beduya講師（兼任）、Cristina Tong Malimban講師（兼任）を削除
- ・時間割の都合により、Craig Anthony Nevitt講師（兼任）及び担当授科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を追加
- ・時間割の都合により、Julia Daley Amelia講師（兼任）の担当授科目から「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅣ」を削除
- ・教育職員免許法施行規則の一部改正により、小川雅史講師（兼任）の担当授業科目「教育方法学（中・高）」の科目名を「教育方法学（中・高）（情報通信技術の活用含む）」に変更
- ・時間割の都合により、Stachus Peter Tu講師（兼任）の担当授業科目に「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を挿入
- ・時間割の都合及び新規雇用によりFrench Matthew Douglas講師（兼任）、Gladys Barbara Javier講師（兼任）及び担当授科目「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」を挿入
- ・浦川源二郎講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・時間割の都合により、川和田晶子講師（兼任）の担当授業科目から「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」を削除
- ・黒飛知香講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・橋本直子講師（兼任）辞任により担当教員表から削除
- ・兼任講師辞任により、柴田佳祐講師（兼任）及び担当授科目「日本国憲法」を挿入
- ・時間割の都合により、山野幸子講師（兼任）及び担当授科目「くらしと自然」を挿入
- ・兼任講師辞任により、神代貢志講師（兼任）、担当授科目「くらしと法律」を挿入

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- 大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
10 名	5 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
11	9	1	0	21	1	17	5	1	0	23	1
(10)	(9)	(1)	(0)	(20)	(1)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
17	5	1	0	23	1	17	5	1	0	23	1
[6]	[Δ4]	[0]	[0]	[0]	[0]	[6]	[Δ4]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	3 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{23}{21} = \boxed{109.52} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{3}{23} = \boxed{13.04} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{1} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
2	講師	大野内 愛	R2.3	選択	教科の学び（音楽）	②	R2.3.31 他大学へ転任のため辞任（2）			
				選択	音楽科教育法	①				
				選択	音楽科教育法演習	①				
				選択	教材の研究と開発（音楽）	①				
				必修	教育学研究Ⅰ	①				
				必修	教育学研究Ⅱ	①				
				必修	教育学研究Ⅲ	①				
				必修	教育学研究Ⅳ	①				
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	5	科目	必修	5	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	9	科目	計	9	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{1}{23} = 4.34\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員交代(3-②)については、当該教員が担当予定であった9科目のうち8科目を他の専任教員で分担して担当し、残りの1科目については当該教員が兼任教員として担当することとした。このため、学生の履修及び指導上の不都合は生じていない。なお、教員の交代については、年度当初の学年別の履修ガイダンスの際に、学科長、チューター及び教務委員等から学生に直接周知している。また、学内ポータルサイトにシラバスを掲載して事前の周知も行って、履修登録等の混乱は生じていない。今後は、各科目の教育内容及び水準の維持・向上及び当該科目の後任となった専任教員の負担軽減のために、今年度中に必要な教員補充を行うこととしている。(2)

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 結 果 (令和3年)	広島文教大学の既設学科等（人間科学部心理学科）の入学定員超過の改善に努めること。	指摘事項（改善） 本学の入学者選抜においては、全ての学部・学科についてアドミッション・ポリシーを学生募集要項に明示し、またいわゆる三つのポリシーを公式ホームページに掲載する等、本学の方針を受験生に周知するよう努めてきている。その結果、令和3年度及び4年度の志願倍率は、大学全体でそれぞれ4.6倍及び4.3倍であったのに対し、人間科学部心理学科にあつてはそれぞれ6.6倍及び7.2倍となり、志願の集中が顕著であった。さらに令和4年度の間科学部心理学科の各選抜種別においては、アドミッション・ポリシー、各選抜の趣旨及び教育の質保証の観点から、入学者が入学定員のおよそ1.3倍以内に収まるよう、令和3年度の入学歩留まり（0.25倍）を目安として合格判定を行ったが、想定以上に高い歩留まり（0.34倍）となり、入学定員を大幅に超過する結果となった。	これまで同様にアドミッション・ポリシー等の本学の方針の明示に努めるとともに、教育の質保証の観点にいつそう留意し、入学者選抜の合格判定においては、過去のデータを精査した上で、より精度の高い入学歩留まりに基づいた合格判定を行い、入学定員超過の抑制に努める。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<教育学部 教育学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的として、高等教育研究センターを設置している。目的達成のための具体的事項は、教員8名と事務職員4名（令和4年度）で構成する運営委員会において検討・審議を行っている。

（広島文教大学高等教育研究センター規程 第1条及び第2条）

第1条 この規程は、学校法人武田学園組織規程第14条第2項の規定に基づき、広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 センターは、本学における教育の改革・改善を組織的かつ継続的に支援することにより、教育の質的向上を図ることを目的とする。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

運営委員会を、令和3年度は12回開催し、毎回、ほぼ全員の委員が出席している。

c 委員会の審議事項等

広島文教大学高等教育研究センターの業務（広島文教大学高等教育研究センター規程第3条）

- (1) 高等教育に係る調査及び研究に関すること。
- (2) 高等教育の質保証に係る支援及び推進に関すること。
- (3) 高等教育に関する情報の収集及び分析に関すること。
- (4) 情報の公開に関すること。
- (5) 将来構想の企画・立案に関すること。
- (6) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価及び改善等に関すること。
- (7) ファカルティ・デベロップメントに関すること。
- (8) センター刊行物の編集及び刊行に関すること。
- (9) 研究倫理に関すること。
- (10) その他、センターの目的を達成するために必要な業務

高等教育研究センター運営委員会審議事項（広島文教大学高等教育研究センター運営委員会規程第2条）

- (1) 広島文教大学高等教育研究センター（以下「センター」という。）の業務及び運営に関すること。
- (2) その他センターに関し必要な事項に関すること。

② 実施状況

a 実施内容

<令和3年度実績>

1. FD・SD研修会の実施
2. 広島文教大学紀要の発行
3. 広島文教大学高等教育研究の発行
4. 「新任教員研修プログラム」の実施

b 実施方法

1. FD・SD研修会

毎回の研修会について、高等教育研究センター運営委員会でテーマを設定し、学内から教員、事務職員を問わず適任者を講師として選出・決定して実施している。

2. 広島文教大学紀要の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている。

なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準維持と教員の研究能力の向上を図っている。

3. 広島文教大学高等教育研究の発行

教授会及び学内メールでの周知を図り、学内教職員に対して執筆者を募っている。

なお、提出された原稿については、高等教育研究センター内に編集委員会を設置して、印刷前に内容のチェックを行うことにより、掲載論文の水準維持と教員の研究能力の向上を図っている。

4. 「新任教員研修プログラム」の実施

専用研修を含めた学内諸研修会への計画的な参加促進及びメンター教員との定期面談により、新任教員が円滑に教育・研究活動や学務に臨むことができるよう努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. FD・SD研修会

夏期（8月26日）：5講座を実施（参加116名、教員の参加80名）

冬期（3月1日）：3講座を実施（参加97名、教員の参加67名）

※新型コロナウイルス感染症対策として、一部非対面形式で実施した。

2. 広島文教大学紀要

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学紀要56巻を発行し、7編の原著論文を掲載

3. 広島文教大学高等教育研究

教員の研究活動支援促進として、広島文教大学高等教育研究第8巻を発行し、3編の原著論文を掲載

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教員の資質の維持向上を目的とするFD・SD活動のうち、「1. FD・SD研修会」については、実施後に参加者へのアンケート調査を行っている。また、FD・SD研修会については、開催した各講座のプレゼンテーション資料のうちで公開可能なものを学内共有フォルダに掲載し、全教職員の情報の共有と資質向上に資するよう、努めている。

また、「2. 広島文教大学紀要」及び「3. 広島文教大学高等教育研究」には、理論的研究だけでなく、教育実践報告や学修者の実態に関する調査結果等を積極的に掲載して教職員に配付し、教員の資質の維持向上方策の一助としている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

1. 学生による授業評価アンケート（前・後期の2回実施）

前期は7月から9月、後期は12月から3月を回答期間として実施

2. 学修状況調査（後期）

12-1月を回答期間として実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果は、授業科目ごとの集計結果とともに、教養教育科目、専門教育科目（学科別）及び教職科目ごとにも集計され、学内ポータルサイトで公開されており、教職員や学生が自由に閲覧できる。

また、アンケートの結果、学生による評価の高かった授業科目は、翌年度に公開授業（教員相互の授業参観）の対象科目として公開されている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

「教育学・保育学分野に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付け、理論と実践の関係について理解した上で総合的に実践できる応用能力の修得に向けた教育を行うこと」及び「学校や家庭・地域における教育・保育を主体的に創造する能力と態度を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会への貢献を目指すこと」を教育研究上の目的とし、「教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材」を育成することを目標として、設置の趣旨・目的に謳っている。今日の学校教育の現場における課題は、いじめ、不登校、暴力行為など生徒指導上の課題対応、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICT機器の活用、校種間連携の推進など、複雑化・多様化の様相を呈している。また、地域社会のニーズとして、知識や教育技術において秀でた良質の教員を供給することが求められてもいる。このような学校教育の現状や地域社会の要請に鑑み、教育研究上の目的及び人材育成目標の実現・達成に向けて、引き続き教育・研究活動を推進する。

なお、開設当初からの本学科への志願者数は、入学定員150名に対して初年度（令和元年度）1,230名（志願倍率8.2倍）、開設2年目（令和2年度）は1,121名（志願倍率7.47倍）、開設3年目（令和3年度）は867名（志願倍率5.78倍）、開設4年目（令和4年度）は814名（5.42倍）となり、これは本学科の設置の趣旨・目的等が社会的要請に十分応えうるものであることを示している。

今後も、本学科の特色ある教育の充実を図り、地域社会の要請に貢献する人材を輩出できるよう努めていく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・ 令和4年10月1日 公表

b 公表方法

・ 大学ホームページ上に公開予定（令和4年10月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・ 公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を令和元年度に受審し、評価基準に適合している旨認定された。次回は令和8年度に受審予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [・ ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他 ()]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。